

明治大学博物館

年報

2011年度



明治大学博物館

明治大学博物館

年 報

2011年度



明治大学博物館



目次



巻頭言	博物館長 風間信隆 (商学部教授)	5
I	展示活動	7
1	特別展 (7)	
2	その他の展覧会 (12)	
II	教育普及活動	15
1	講座 (15)	
2	博物館実習 (16)	
3	在学生対象事業 (16)	
4	アウトリーチ活動 (17)	
5	社会連携・大学間連携 (17)	
6	ボランティア受入 (18)	
7	情報提供 (19)	
8	明治大学博物館友の会 (20)	
III	研究活動その他	21
1	調査研究活動 (21)	
2	学芸員の研究業績 (21)	
3	刊行物 (22)	
4	大久保忠和考古学振興基金 (23)	
IV	収蔵資料	25
V	資料	32
1	入館データ (32)	
2	組織・構成 (35)	
3	予算・決算 (37)	
4	施設概要・見取り図 (39)	
5	規程 (41)	
6	2012年度教育・研究に関する計画書 (48)	
7	博物館のあゆみ (52)	

＜巻頭言＞

博物館長 風間信隆

3.11 東日本大震災の影響により、当博物館も1ヶ月あまりの休館を余儀なくされましたが、その後、関係各位の懸命なご尽力・ご支援により、年度当初予定された事業計画はすべて達成できましたことをご報告申し上げますとともに、関係各位のご支援・ご協力に心よりお礼申し上げます。

2011 年度博物館に関わる、特筆すべき展示活動では、何よりも2011年6月から7月にかけて開催され、明治大学創立130周年記念事業の一環としても取り組まれました「漆器 JAPANWARE 文理融合型研究から見てきた漆の過去・現在・未来」展を挙げることができます。漆器は日本を代表する伝統工芸品として知られておりますが、漆の「高い品質と驚くべき素顔」は日本人の間でも共有されているとは言いがたいものがあります。そこでこの展覧会では、明治大学のバイオ資源化学研究所と日本先史文化研究所との共同企画によって、これまでの「漆」に関する学内の研究蓄積を基盤として、その研究成果を社会に発信するとともに、在学生教育・生涯教育の機会とすることを目的としました。「商品としての漆器」の分析・評価、文学部の阿部芳郎先生が取り組む「縄文時代の漆器」、そして理工学部の宮腰哲雄先生が取り組む「次世代高機能材料としての漆」に関する最新の研究成果をベースとして展示が構成され、同展示期間中に3千5百名を越える入場者を数える一大イベントになっています。この特別展の関連企画として実施されたリバティアカデミー・オープン講座には100名を超える受講者が参加されました。また、並行して連続講座も6月から7月にかけて全6回が開催されました。

また2012年1月から2月にかけて南山大学人類学博物館との合同特別展「人類史への挑戦ー考古・民族コレクションの系譜」も開催され、同館の紹介とその考古学研究の紹介、G.グロート神父と日本考古学研究所のコレクション、上智大学北西タイ歴史・文化調査団の調査資料（南山大学に一括移管）が展示されました。この特別展は開催期間中に4千2百名を超える方々にご見学頂くことができました。引き続き、南山大学との交流事業が行われますが、この経験の検証を踏まえてさらに質的に高い特別展の具体化等交流事業を促進していきたいと考えております。

さらには2011年度に新たに当博物館に収蔵されました資料を中心として紹介する展覧会、商品部門、刑事部門そして考古部門のそれぞれで、さまざまな明大コレクション展を開催致しますとともに、リバティアカデミー博物館入門講座・公開講座を開催することができました。なかでも「吾妻ひでお 美少女実験室」、「民衆の凶像展」等の展覧会には合わせて1万人近い多くの入場者をお迎えすることができました。

大学博物館の使命は何よりわが国の最高学府としての高いレベルの調査・研究に基づいてこれを教育に活用するとともに、その成果を社会に発信することによって、社会における大学のレーゾンデートル（存在理由）を高めることにあると思われまふ。2004年にアカデミーコモンの地階に従来の商品陳列館、刑事

博物館、考古学博物館という3つの博物館を統合して新たなスタートを切った新博物館も多くの方々のご支援・ご尽力によってすでに年間8万人を超える入館者を迎えるまでになっており、また大学基準協会の大学評価（2008年）でも高い評価を受け、明治大学の研究と教育の独自性を社会に発信する上で大きな役割を果たしております。これらの成果に対する、杉原重夫前館長・渡 浩一副館長を中心とする学芸員、教職員の方々の多大のご尽力を忘れることはできません。とくにこの場を借りてご定年により2011年度をもって館長の職を辞された杉原重夫先生の当博物館の発展へのご貢献に心よりお礼を申し上げたいと思います。またこうした博物館の発展において学生諸君、教職員そして「友の会」の皆様のご協力・ご支援にも支えられていることが忘れられてはなりません。この点で博物館の一層の発展のためには、博物館業務に関わる関係者の方々や入館者の方々との積極的な「対話」(dialogue)と「共創」(engagement)が不可欠であり、これによって博物館のアカウンタビリティ (accountability) と透明性 (transparency) の向上を図り、博物館の社会的使命 (social mission) と社会的責任 (social responsibility) を果たしていくことが今日の博物館にはますます求められているようにも思われます。

当博物館が、我が国にある、数多くの大学博物館の中でも一頭地抜けた存在として評価を受けておりますのも、ひとえにその基礎部分である調査・研究のレベルの高さにあるといっても過言ではありません。研究・教育・社会連携の好循環を連動させることでさらに質的向上を目指すとともに、明治大学らしい、固有のミッションを絶えず問い続け、過去の「モノ」を通して現在のアイデンティティを再認識し、未来を展望する役割を果たし続けていかねばならないと考えております。

(かざま・のぶたか 明治大学商学部教授 2012年4月1日博物館長着任)

I 展示活動

1 特別展

「漆器 JAPANWARE 文理融合型研究から見えてきた 漆の過去・現在・未来」

(1) 実施形態

主 催 明治大学博物館
 共同企画 明治大学バイオ資源化学研究所 明治大学日本先史文化研究所
 後 援 千代田区 二戸市うるし振興室 財団法人伝統的工芸品産業振興協会 社団法人日本漆工協会
 協 力 株式会社小野屋漆器店 明治大学古文化財研究所
 会 期 2011年6月18日(土)～7月31日(日) 44日間
 会 場 明治大学博物館特別展示室 入場料 ¥300 入場者数 3,515名
 企画委員 阿部芳郎 明治大学文学部史学地理学科教授
 外山 徹 明治大学博物館学芸員 ※展覧会担当学芸員(商品部門担当)
 本多貴之 明治大学理工学部応用化学科専任講師
 宮腰哲雄 明治大学理工学部応用化学科教授
 宮里正子 浦添市美術館館長

(2) 趣旨

日本を代表する伝統工芸品としての“漆器”。しかし、その高い品質と驚くべき素顔は、世界はもとより、日本人の間においてもよく共有されているとは言いがたい。この展覧会の開催により、世界に誇るべき日本の漆文化について理解を深める機会を提供する。

漆器の歴史は、古く縄文時代にさかのぼり、現在ではおよそ9千年前からの可能性が指摘されている。そして、今なお伝統の製作技法は近代機械工業との軋轢を経て実用品の中にも脈々と受け継がれているが、将来に向け、特殊なジャンルの商品として止めるのではなく、その存在意義を現実社会の中にどう位置付けてゆくのか、工業製品としていかに普及されるべきかが課題となっている。

本展覧会では、明治大学が関わっている漆に関する研究の現在を社会にアピールするとともに、在学生教育・生涯教育の機会とすることを目的とし、博物館が取り組む「商品としての漆器」の分析・評価、文学部阿部芳郎教授が取り組む「縄文時代の漆器」、理工学部宮腰哲雄教授が取り組む「次世代高機能材料としての漆」に関する研究成果を基礎に展示を構成する。そして、大学創立130周年企画の共通コンセプト「世界へ」に協賛し、世界的な視点から漆文化を再認識する企画を加える。

(3) 展示構成

① 神秘の物質を科学する —漆の科学分析—

漆の植林の中に紛れ込むような写真イメージに続いて、まず、最初に“漆”とはどのような物質なのかを紹介する。湿った空気にさらすとよく固化し、いったん固まると器物の耐水性、耐久性を高め、顔料を添加して色を表現したり、装飾用の素材を器面に接着することもできる“漆”という物質。科学分析によって明らかになった漆の成分、固化のメカニズムを明らかにする。

② 人はなぜ漆を使うのか? —縄文時代の漆文化—

人々が漆を利用し始めた初期の形態を探ってみる。漆利用が年代的にも古く遡ることをアピールし、漆利用の原初的なあり方を示すため縄文時代の漆器を展示。着眼点としては、漆を塗るもの、塗らないものの対比、赤い色を付けること、赤と黒で絵柄を表現すること、光沢のある器面を表現すること、祭祀に関わるあるいは呪術的な意味をもつ道具に塗られたこと。また、当時の漆芸技法を示す遺物などを取り上げる。

③歴史の中の漆器

漆芸技法の進化を示すため、古代～近世における漆器利用とヨーロッパ社会における高い評価を象徴的に表現する。高級調度として公家、武家、寺院における需要、庶民も含めて広汎に使用された汁碗等の実用品を紹介。限られたスペースであるため、写真パネル及び漆器装飾の2大技法である金蒔絵・螺鈿、そして輸出漆器を展示する。

④アジアに広がる漆文化

漆器がアジアに共通の文化であることを提示するため、各国・地域ごと（中国、朝鮮半島、琉球、ベトナム、タイ、ミャンマー等）の特色を反映した製品を一堂に展示し、各国ごとに将来の展望を解説する。東京国立博物館、浦添市美術館からの借用品で展示を構成し、外観上、作品の大きさ色彩的にも展示室内の最も目を惹く箇所となる。

⑤今われわれは？ —漆器の現在—

現在、我々が生活の中でどのように漆器と関係をもっているかを再確認する。少し昔の食膳の様子から、高度成長期には一般家庭でも購入されるようになった正月用品に象徴されるハレの器、戦後における合成漆器の開発と生産、伝統漆器が身近ではなくなった中においてもそのデザインが影響を及ぼしている点、「ホンモノの漆器を普段使いに」をアピールし、漆の質感にこだわった近年の商品開発までを取り上げる。

⑥漆利用の可能性を拓く —一次世代高機能材料としての漆開発—

合成漆器普及の背景には伝統的な漆芸技法が量産・普及に対応できないという理由があった。固化に時間を要する、美しい艶を出すためには手間ひまかけた研磨や高度な塗り技法が求められること、作業工程の機械化ができない、という問題があった。そこで、これらの課題をクリアすべく開発された、有機ケイ素化合物の添加によるハイブリッド漆、漆の粒子を小さくして使用性を高めたナノ漆を紹介する。

(4) 展示資料概要

- ①資料数 127点（内借用資料75点、館蔵資料52点）
 ②資料借用先 浦添市美術館（沖縄県） 桶川市（埼玉県） 川口市遺跡調査会（埼玉県）
 東京都北区教育委員会（東京都） 高崎市教育委員会（群馬県）
 東京国立博物館 明治大学バイオ資源化学研究所 個人

(5) 開催記念講演会

- ①リバティアカデミーオープン講座 漆文化のはじまりと広がり—文理融合研究から見えてきたこと—
 日時 7月2日（土） 13:00～17:00
 会場 明治大学リバティタワーB1F 1001教室
 受講料 明大生、リバティアカデミー会員：無料 一般：1,000円 参加者 148名

《講座趣旨》

漆は古くから用いられてきた天然塗料で、その塗膜は艶があり優雅で美しいことから器物の装飾や加飾に用いられ、また漆は漆器に金粉や金箔を貼る接着剤として使われ美しい蒔絵が作られてきました。漆文化に対する研究視点は様々ですが、ここでは縦軸にその起源、横軸にワールドワイドな空間的広がりを置いてその特質を探ります。さらに、これらのテーマに関わり、漆の科学分析によって明らかになった点を紹介します。

《プログラム》

- 漆とは何か？ 宮腰哲雄（明治大学理工学部応用化学科教授）
 科学の目から見る“漆”の世界 本多貴之（明治大学理工学部応用化学科専任講師）
 縄文時代の漆文化 阿部芳郎（明治大学文学部史学地理学科教授）
 アジアの漆文化～琉球王国と東南アジアの国々より～ 宮里正子（浦添市美術館館長）
 討論 司会進行：外山 徹（明治大学博物館学芸員）

- ②リバティアカデミー講座 漆アカデミー・ベーシックコース特別編「漆を知り、使って楽しむ」
 日時 6月11日～7月23日 土曜日 全6回 15:00～16:30
 受講料 15,000円 受講登録者23名 のべ受講者101名

《講座趣旨》

漆は天然塗料であり、塗膜は艶があり優雅で美しく、器物の装飾材料としても重宝されてきました。漆に関わる化学は、石油など化石資源に依存しない天然材料を利用した、自然の循環サイクルを見習ったもの作りとして注目されています。しかし漆器は“よいもの”と認知されつつも、実生活からは縁遠く取り扱いの難しいものとして敬遠されがちです。漆と漆器の魅力を再検証し、次世代型の工業原料としての可能性を紹介します。

《プログラム》

漆の魅力	宮腰哲雄（明治大学理工学部応用化学科教授）
漆器製品の見方・買い方	外山 徹（明治大学博物館学芸員）
江戸の漆器碗	追川吉生（明治大学文学部兼任講師）
漆の年代と産地	吉田邦夫（東京大学総合研究博物館教授）
漆の弱点を考える	神谷嘉美（東京都立産業技術研究センター研究員）
暮らしの器をプロデュースする	桐本泰一（漆器プロデューサー 輪島キリモト・桐本木工所代表補佐）



展示室入口



縄文時代の漆器



アジア各地の漆器



現代の伝統漆器



次世代機能材料としての漆利用



ギャラリートークの様子

合同特別展「人類史への挑戦—南山大学考古・民族コレクション」

(1) 実施形態

主催 明治大学博物館・南山大学人類学博物館
会期 2012年1月20日(金)～3月10日(日) 55日間
会場 明治大学博物館特別展示室 入場料 無料 入場者数 4,214名
企画・構成 黒沢浩(南山大学人類学博物館)・島田和高・忽那敬三・外山徹

(2) 趣旨

明治大学博物館と南山大学人類学博物館は2010年度より博物館同士の交流事業を開始した。本特別展は、その事業の一環として行われるもので、明治大学を会場として南山大学が所蔵する貴重な考古・民族誌コレクションを一堂に展示し、南山大学人類学博物館の魅力を紹介する。南山大学には、第二次世界大戦後の日本考古学の発展に貢献したジェラード・グロートやヨハネス・マリンガーにより残された考古コレクションをはじめ、上智大学によって収集されたタイ北部山地の民族誌資料やパプアニューギニア民族調査により得られた資料群などが所蔵されている。明治大学による発掘とその出土品にもゆかりのある資料も展示された。なお、展示期間中には、「博物館」という近代の装置をめぐるシンポジウム「コレクションの再生-資源化される博物館資料」も開催された。

(3) 展示構成

①南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館の沿革と、展示した各コレクション(南山大学発掘資料、日本考古学研究所資料、マリンガー資料、パプアニューギニア民族誌資料、タイ民族誌資料、オセアニア民族誌資料)の由来及び特徴について写真資料を用いて紹介した。

②G. グロート神父と日本考古学研究所

1931年に来日したジェラード・グロート神父により1950年代初頭までに日本考古学研究所(千葉県市川市)に残された、縄文時代を中心とする考古コレクションを展示した。グロートの後を引き継いだヨハネス・マリンガーによって当時の南山大学に資料が移管された。学史的に著名で数多くの標式資料を含む稲荷台遺跡、花輪台遺跡、二ツ木遺跡、姥山貝塚の出土品を展示した。

③マリンガー・コレクション

グロート神父の後任として日本考古学研究所の運営に当たったヨハネス・マリンガーが収集した、ヨーロッパを中心とする旧石器時代石器のコレクションを紹介した。世界各地で収集されたコレクションは、標式資料を網羅する形で形成され、教育を主目的としたコレクションの収集方針をうかがい知ることができる。

④南山大学の考古学研究

南山大学人類学科による発掘調査およびその研究成果を展示した。南山大学の考古コレクションの中核をなす資料である。展示品は愛知県内に所在する入海貝塚(縄文早期)、保美貝塚(縄文晩期)、高蔵遺跡(弥生前期・後期)、瑞穂遺跡(弥生後期)、南山聖堂古窯跡(古代)からなる。他に研究者・関係者により収集された、大須二子山古墳(6世紀前半)資料を展示した。

⑤上智大学北西タイ歴史・文化調査団

1967年から74年にかけて上智大学がタイ北部山地民のユーミエン族とモン族を中心に行った2000点を超す民族調査資料を展示した。資料は上智大学から南山大学に一括移管されたものである。展示品は、衣装、装身具、儀礼用具の他に、「十八神像」、「評皇券牒」が展示された。

⑥今泉コレクション

故今泉隆平氏によるオセアニア美術コレクションの展示である。氏のコレクションは、南山大学、天理大学、早稲田大学に分割して移管され、南山大学は東ビスマルク諸島、ソロモン諸島以東の太平洋島嶼部の資料を受け入れている。

⑦パプアニューギニア民族誌資料

1964 年に行われた南山大学による東ニューギニア（現パプアニューギニア独立国）高山地帯での民族調査によって得られたコレクションを展示した。精霊像，仮面，生活用具などが展示された

(4) 展示資料数

借用機関・個人；1 個所（南山大学人類学博物館） 出展資料；163 件

(5) 関連事業

第 3 回 明治大学博物館・南山大学人類学博物館合同シンポジウム

コレクションの再生—資源化される博物館資料—

日時 2012 年 1 月 21 日（土） 10:00～16:30 会場 明治大学駿河台キャンパス 大学会館 8 F 会議室

《関連のプログラム》

大学・地域博物館の連携とコレクションの文化資源 化—G・グロート神父のコレクションを中心として

領塚正浩（市立市川考古博物館学芸員）

民族誌資料による文化表象と再文脈化

黒沢 浩（南山大学人文学部准教授）

→シンポジウムの全体については 18 ページを参照

(6) 特別展 e-ラーニングコンテンツの作成

南山大学人文学部黒沢浩准教授による展示解説映像



展示室入口



グロート・コレクションの縄文土器



タイの民族資料



オセアニア・ニューギニアの民族資料（奥）

2 その他の展覧会

(1) 主催展覧会

ア

新収蔵資料展 2011	
会 期	3月3日～4月17日 19日間 ※中断あり
入場者数	1061名
2010年度に明治大学博物館が新たに収集した資料および関連する収蔵資料を紹介した。捕者道具や国内・海外の刑罰関係絵画資料、サヘラントロプス・チャデンシス頭骨をはじめとした化石人類レプリカなどを展示した。	

イ

URUSHI! 一漆 Part1 多彩な漆利用 栽培から漆芸まで	
会 期	2012年3月17日～4月16日 31日間
入場者数	2668名
明治大学バイオ資源化学研究所と共催。漆掻きとその道具、漆塗り刷毛、漆器の製造工程や金蒔絵、螺鈿、堆錦、変り塗といった加飾技法、漆染色、漆蜂蜜、漆コーヒー、漆炭、漆板・箱、床磨き、ワックス、漆酒など多彩な漆利用の可能性について紹介した。	

(2) その他の展覧会

ア

吾妻ひでお美少女実験室	
会 期	4月23日～5月23日 31日間
入場者数	3302名
米沢嘉博記念図書館主催。吾妻ひでおは、日本のマンガやアニメを特徴付けるキャラクターの絵柄やSF的な表現を革新したマンガ家。本展示では、吾妻ひでおの描く「美少女」のモチーフに焦点を合わせ、後続の作品群に与えた影響を検証した。	

イ

民衆の図像展	
会 期	8月21日～8月28日 8日間
入場者数	989名
国際図像解読研究会主催。吉祥文様を描いた「寶水堂コレクション」の藍染布など、日本古来の土産・育児にかかわる民衆の真摯な祈りが込められた図像や、日本・海外の神仏の教えや異界の諸相を示した図像を紹介。林雅彦氏(本学教授)所蔵の古画なども展示。	

ウ

RE/MIXED マレーシアと日本におけるサステイナブル建築デザインの地平	
会 期	9月5日～9月29日(日・祝日閉室) 17日間
入場者数	1727名
マレーシアにおける環境配慮型のサステイナブル建築のデザインは、非常に洗練されており、海外でも評価されているが、我が国では殆ど紹介されていない。一方、我が国のサステイナブル建築デザインや技術の高さには定評がある。これら二か国のサステイナブル建築デザインへの取り組みを紹介し、これからのアジアにおける方向性を探る。明治大学理工学部建築学科の主催。	

エ

明治大学の国際交流 130年	
会 期	10月7日～12月12日 73日間
入場者数	5162名
明治大学創立130周年記念展示の一環として開催。明治大学国際交流の現在と将来像を紹介するとともに、国際交流130年の歩みをたどる。明治大学創立130周年記念事業実行委員会の主催。	



明治大学の国際交流 130年



URUSHI! 一漆

(3) コレクション展

①商品部門

ア

テーマ	東日本大震災 被災地にさらなる復興支援を
期間	4月11日～5月11日 31日間
小久慈焼(岩手県)、仙台張子、仙台平、雄勝硯(宮城県)、大堀相馬焼(福島県)など被災各県の工芸品を展示し、募金の呼びかけをおこなった。	

イ

テーマ	江戸の洒落っ気
期間	5月12日～7月12日 61日間
時田ことわざコレクションの展示。江戸期の刷り物の軽妙洒脱な文章を人々が楽しんでいた様子を紹介し、“ことわざ”は言語のみならず、絵画や工芸品などで視覚的にも表現されていることの理解を深めた。	

ウ

テーマ	アジアに花開く 漆器
期間	7月13日～7月31日 18日間
特別展「漆器 JAPANWARE」関連展示。「アジアに広がる漆文化」に関連し、当館所蔵の漆器資料により、アジア各国から影響を受けた技法を紹介した。	

エ

テーマ	夏の器
期間	8月1日～31日 24日間
薩摩切子、江戸簾、備前焼、九谷焼の染付磁器、阿波正藍しじら織、燕鎚起銅器など、涼を感じられる商品群を展示した。	

オ

テーマ	東日本大震災 さらなる復興支援を
期間	9月1日～30日 30日間
大堀相馬焼(福島県)、笠間焼(茨城県)、益子焼(栃木県)を展示し、被災状況を介绍するとともに募金の呼びかけをおこなった。	

カ

テーマ	水滴
期間	10月1日～11月30日 61日間
書道用具の一つである水滴は、蠟型鑄銅によるものを始め芸術表現がその特色である。工芸品の一側面である造形美についてアピールし、手のひら大の美を楽しんでいただけるよう高岡銅器、南部鉄器、備前焼などの水滴を展示した。	

キ

テーマ	江戸の洒落っ気 役者とことわざ
期間	12月1日～2012年2月28日 59日間
時田ことわざコレクションの展示。“ことわざ”を使った役者の評論を題材とする錦絵、刷り物を展示し、江戸の人々の間にあった豊かな言葉の技を紹介した。	

ク

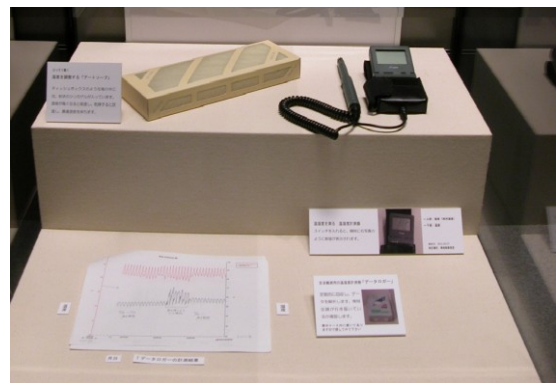
テーマ	文化財の保存 人知れず活躍する道具達
期間	2012年3月1日～4月30日 61日間
文化財の保存技術について、展示室内の空気環境に関するものを紹介するため、汚染物質除去シート、汚染物質の検知試薬、温湿度記録装置、温湿度カウンターなどを展示した。	



東日本大震災復興支援展 募金の呼びかけ



江戸の洒落っ気



文化財の保存 人知れず活躍する道具達

②刑事部門

ア

テーマ	敵討ち
期間	12月1日～2012年2月7日 56日間 (冬季休業日:12/26～1/7)
刑事部門の収蔵品の中から、敵討ちにかかわる錦絵、古文書を取り上げ、江戸時代に行われた敵討ちと、当時のメディア・文芸の受容を紹介した。	

イ

テーマ	内藤家文書にみる能楽関係史料
期間	2012年2月7日～5月20日 101日間
江戸期の内藤家による能役者保護の様子と、明治期に入ってから能装束・能道具コレクション形成を進める動きを紹介した。	



敵討ち



内藤家文書にみる能楽関係史料



石器製作技術

③考古部門

ア

テーマ	明大コレクション 18: 石器製作技術 — 多久遺跡群を中心に —
期間	2月19日～5月31日 75日間
佐賀県多久遺跡群出土の旧石器時代の石器資料から、原石が槍先形尖頭器となるまでの各製作段階の資料を紹介し、石器製作の具体的な状況を示した。	

イ

テーマ	明大コレクション 19: 古代中国の鼎
期間	6月1日～8月31日 85日間
調理具・祭器として用いられた古代中国の青銅製鼎や関連する土器を展示し、文様に込められた意味や機能について紹介。	

ウ

テーマ	明大コレクション 20: 弥生時代の農具
期間	9月1日～11月28日 89日間
収穫の道具である石庖丁や、杵・鋤・鍬のレプリカなど、弥生時代の農具の姿と機能について、近現代の農具と大きな差がない点をクローズアップして紹介。	

エ

テーマ	明大コレクション 21: 前場幸治コレクション ① 古代瓦の作り方
期間	11月29日～2012年3月6日 83日間
前場コレクションの中から、日本に初めて瓦が伝わったころの造瓦法や屋根の葺き方がわかる資料を選んで紹介。参考資料として、中国で現在も使用されている造瓦道具も展示。	

オ

テーマ	明大コレクション 1: 中国鏡
期間	2012年3月7日～5月31日 86日間
考古部門の代表的な収集資料のひとつである中国鏡 42面の展示。	



弥生時代の農具

II 教育普及活動

1 講座

(1) リバティアカデミー博物館入門講座

①

モノと遺跡から見た弥生時代			
日時	6月17日～7月15日 金曜日		
定員	15:00～16:30〈全5回〉 定員30名		
講師	忽那敬三(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥8,000		
受講登録者	30名	会場	博物館教室・体験学習室
各遺跡から出土した土器や石器を観察しながら、稲作を中心に弥生時代とはどのような時代であったのかを学ぶ。			
①弥生時代の幕開け 九州－板付遺跡・立屋敷遺跡 ②近畿－深草遺跡・千代田遺跡・瓜破遺跡 ③東海－登呂遺跡・有東遺跡・西志賀遺跡 ④関東1－二ツ池遺跡・伊勢山遺跡 ⑤関東2－岩櫃山遺跡・天神前遺跡・出流原遺跡			

②

黒曜石原産地開発の画期と日本列島旧石器時代史			
日時	3月2日～3月23日 金曜日		
定員	15:00～16:30〈全4回〉 定員30名		
講師	島田和高(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥6,000		
受講登録者	43名	会場	リバティタワー
黒曜石利用から旧石器時代の移り変わりを再構成する。			
①黒曜石原産地開発の二つの画期と二つの休止期 ②列島人類文化の起源と黒曜石原産地の開発 ③黒曜石利用と旧石器時代社会の成り立ち ④黒曜石原産地開発の休止期と時代の画期			

③

常陸の埴輪をさぐる			
日時	11月18日～12月16日 金曜日		
定員	15:00～16:30〈全5回〉 定員30名		
講師	忽那敬三(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥8,000		
受講登録者	35名	会場	博物館教室

収蔵資料である玉里舟塚古墳、鉾の宮古墳、馬渡埴輪窯の出土埴輪を観察しながら、常陸の埴輪の概要と地域間の技術交流の様相をさぐる。

- ①常陸の埴輪の概要
- ②玉里舟塚古墳の埴輪
- ③鉾の宮古墳の埴輪
- ④馬渡埴輪窯の埴輪
- ⑤常陸の埴輪と地域交流

(2) リバティアカデミー博物館公開講座

①明治大学博物館考古学ゼミナール
ア

第49回 考古学から探る古代の住まい 企画協力:明治大学文学部考古学専攻			
日時	5月6日～6月3日 金曜日		
定員	18:00～20:00〈全5回〉 定員150名		
講師	安蒜政雄(明治大学文学部教授)、山本暉久(昭和女子大学大学院教授)、大村直(市原市教育委員会主査)、齋藤聡(伊勢崎市立第二中学校教諭)、宮本長二郎(別府大学客員教授)		
受講料	¥5,500	受講者数	67名(のべ308名)
各時代の遺跡から出土する住居跡や、建築部材から推定できる住まいの姿など、考古学的手法がかりをもとに、様々な角度から古代の住まいの様相に迫る。			
①旧石器時代の住まい(安蒜) ②縄文時代の住まい－敷石住居の謎に迫る－(山本) ③弥生・古墳時代の堅穴住居とその住民(大村) ④黒井峯遺跡から見た古墳時代の住居構造(齋藤) ⑤出土部材から見た古代の住まい(宮本)			

(3) 公開特別講義

①商学部・商学研究科連携

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.6 和食器専門店から見た伝統工芸の今			
日時	12月7日 水曜日 16:20～17:50		
講師	内木孝一氏(うつわのみせ「大文字」店主)		
パネラー	高橋昭夫(商学部教授)・福田康典(商学部准教授)他		
進行	外山 徹(商品部門担当学芸員)		
参加費	無料	受講者数	165名

これまでの調査から、顕著な中間流通機構の衰退とメーカーと小売現場、あるいは消費者との商品に対する認識のギャップが判ってきた。手作業の伝統工法は高コストを避けられず価格も機械量産品の何倍にもなるため、高付加価値商品に位置付けての商品開発とマーケティング活動が必要とされてきたが、生活実用品として陶磁器を位置付けるとすれば、また、異なった評価が必要なのではないかという視点もある。今回は、小売店経営者のあるいは流通に関わる立場から和食器生産の現状を分析いただき、伝統工法の活用をテーマとする基調報告とパネルディスカッションによる特別講義をおこなった。

(4) 外部講座等出講

日本機械学会 技術と社会部門主催 イブニングセミナー「漆器(ジャパン・ウエア)の復活に向けて―商品としての漆器のこれまでとこれから―」	
日 時	7月27日水曜日 18:00~19:20
講 師	外山 徹
会 場	明治大学駿河台キャンパス12号館

2 博物館実習

(1) 館務実習

①商品部門

参加者	明治大学16名
実習内容	館内施設・設備見学、収蔵資料整理、ワークシート作成実習、特別展受付担当

②刑事部門

参加者	明治大学15名、学習院大学1名、
実習内容	館内施設・設備見学、収蔵資史料の整理、特別展受付担当他

③考古部門

参加者	明治大学15名、日本大学1名、東洋大学1名、創価大学1名
実習内容	収蔵資料整理、保存処理、坂本万七写真研究所コレクション整理 特別展受付

(2) 見学実習

5月 創価大学見学実習 10名

3 在学生対象事業

①学部間共通総合講座

「博物館の現場を実見する」(後期開講) 水曜5限
《授業の概要・目的》

明治大学博物館で実際におこなわれている展示活動、調査・研究のケース・スタディ、最先端の施設・設備の実見、収蔵資料の実物の見学、などを通して、博物館とはどのような場所であり、どのような活用の可能性があるのか、理解を深めることを目的とします。社会生活を営む中でいかに博物館を有効に活用するか? 現代の博物館は、ただ、展示を見学するばかりではなく、友の会やボランティア活動など、利用者がより主体的に活動に関与する機会が開かれ、そのイメージは大きく変貌しつつあります。また、博物館は成人教育の場であるとともに、親子が共に学べる家庭教育の場としての発展が期待されています。生涯学習社会にあって誰にも平等に保証された教育の機会である博物館をより有効に利用するため、リアリティある実物実見を通して、その現場の状況を理解していただきます。

	テーマ	担当者
①	大学博物館の果たす社会的役割	杉原重夫
②	大学博物館の現状と明治大学博物館の足跡	外山 徹
③	博物館の施設・設備	外山 徹
④	常設展示解説1 江戸時代の刑罰	日比佳代子
⑤	常設展示解説2 伝統的工芸品	外山 徹
⑥	常設展示解説3 旧石器・縄文弥生・古墳	島田和高
⑦	有形・無形の博物館資源(考古資料)	忽那敬三
⑧	有形・無形の博物館資源(歴史資料)	日比佳代子
⑨	博物館の調査・研究1 古文書の調査研究と公開	日比佳代子
⑩	博物館の調査・研究2 埴輪から見た古墳時代後期の首長間関係	忽那敬三
⑪	特別展「漆器 JAPANWARE」	外山 徹
⑫	博物館の調査・研究3 黒耀石研究からみたホモサピエンスの旧石器対応	島田和高
⑬	博物館の調査・研究4 伝統的工芸品の経営とマーケティング研究	外山 徹
⑭	ふりかえりと展望 これからの博物館	杉原重夫

②国際日本学部文化資料学 夏期集中講義
《授業の概要・目的》

日本文化の源流を過去にさかのぼって考察するための素材である文化財について、博物館が収蔵する資料の取り扱いを中心に学びます。我が国の歴史、伝統的な生活習俗のあり方、今日我々が教科書で学んでいる内容は、一体、どのようなプロセスを経て明らかにされてきたのか？ 実習形式を取り入れ、文化財の実物を通じた授業をおこないます。

	テーマ	担当
8月2日	民俗資料・金石文	外山 徹
8月3日	歴史資料	日比佳代子
8月4日	考古資料1 (旧石器)	島田和高
8月5日	考古資料2 (埴輪)	忽那敬三

4 アウトリーチ活動

①出張授業「考古学ってなに？」

日時：6月16日 東京都世田谷区砧南小学校6年生
講師：忽那敬三・古豊裕次朗
受講者数：約160名



考古学ゼミナール（受講修了証の授与） p15



商学部連携公開特別講義 p15~16

5 社会連携・大学間連携

(1) 地域連携

①信州黒耀石フォーラム 2011

主催：信州黒耀石フォーラム実行委員会（小野昭（東京都立大学名誉教授）、岡谷市教育委員会、諏訪市教育委員会、茅野市教育委員会、佐久穂町教育委員会、長和町教育委員会、下諏訪町教育委員会、長野県教育委員会、長野県立歴史館、財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター、長野県考古学会、明治大学博物館、明治大学黒耀石研究センター）

日時：2011年10月22日（土）10：00～16：30

会場：茅野市尖石縄文考古館

《プログラム》

司会：小野 昭（実行委員会委員長、明治大学黒耀石研究センター長）

基調講演：「縄文時代における黒耀石のデポ」

田中英司（埼玉県立さきたま史跡の博物館）

事例報告1：「霧ヶ峰南麓・八ヶ岳西麓に於ける黒耀石一括埋納について—特に茅野市の事例を中心に—」 守矢昌文・山科 哲（尖石縄文考古館）

事例報告2：「黒耀石の一括埋納例 原村の遺跡から」 平出一治

事例報告3：「岡谷市の黒耀石一括埋納例について」 会田 進（明治大学黒耀石研究センター）・河原喜重子（長野県考古学会）

コメント1：「星叢峠黒耀石採掘址と近接地における原石利用の様相」 大竹幸恵（長和町教育委員会）

コメント2：「山梨県の黒耀石一括埋納について」 村松佳幸（北杜市教育委員会）

コメント3：「弥生時代中部高地における黒耀石の集積出土例について」 馬場伸一郎（下呂ふるさと歴史記念館）

総合討論：司会：会田 進、島田和高（明治大学博物館）

②宮崎県及び宮崎県延岡市

ア 出前授業及び講演会

出前授業「江戸時代の地図を見てみよう」

日時：7月5日

講師：日比佳代子

延岡市立南方中学校 生徒 27名。

延岡市教育委員会文化課共催講演会 1

日時：7月5日

「西南戦争と延岡」講師：文学部落合弘樹教授
「内藤家中のお引越し—磐城平から延岡へ—」

講師：日比佳代子

会場：カルチャープラザのべおか 聴衆約60名。
延岡市教育委員会文化課共催講演会 2
日時：2012年3月3日
「内藤家文書 市民が解読した二つの日記」
講師：伊能秀明（中央図書館事務長）
「内藤家文書と生類憐みの令」
講師：外山 徹

イ 「ふるさとの歴史を調べて明治大学に行こう！
作文コンテスト」

対象：延岡市小中生、宮崎県高校生
募集期間：夏休み
応募者数：小学生 34名、中学生 12名、高校生 20名、計 66名
授賞式・明治大学訪問：10月16日
小学生の部

優秀賞：佐藤夏紀（北浦小学校）「宮野浦八十八ヶ所大師祭について」
入選：小野隼弥（旭小学校）「延岡神楽の歴史について」、小田原海（黒岩小学校）「歴史と伝統のあるぼくの学校」

中学生の部

優秀賞：末廣つぐみ（岡富中学校）「先人の知恵に学ぶ」
入選：今村晴菜（恒富中学校）「ふるさと延岡と笠原鷲太郎翁～裏山の銅像から学んだこと～」、菅原岳史（北方中学校）「地域の歴史を知って」

高校生の部

優秀賞：沼勁太郎（五ヶ瀬中等教育学校）「未来をつなぐ用水路」
入選：柏田大貴（高城高等学校）「てげよかとこじゃっど！高城」、谷口千香子（飯野高等学校）「私の町と田の神さあ」

ウ その他

延岡市の地域史学習サークル「充真院を学ぶ会」との交流

(2) 大学間連携

① 合同特別展の開催

人類史への挑戦—南山大学考古・民族コレクション→「I 展覧会 p10」参照

② 第3回 明治大学博物館・南山大学人類学博物館合同シンポジウム

コレクションの再生—資源化される博物館資料—
《趣旨》
博物館資料論をテーマに、両館の専門分野に関わる事例を通して、博物館資料の再調査や資料情報の発信・共有によって生まれる新たな学術的発見や失われた記録の回復、社会貢献の進展、政治性の克服などを議論した。
日時 2012年1月21日（土） 10:00～16:30

会場 明治大学駿河台キャンパス 大学会館 8F 会議室

プログラム

《基調報告》
加藤隆浩（南山大学外国語学部教授）

文化の資源化と文化の復興

《報告》

忽那敬三（明治大学博物館学芸員）

収蔵庫を発掘する—茨城県玉里舟塚古墳の再整理事例から—

領塚正浩（市立市川考古博物館学芸員）

大学・地域博物館の連携とコレクションの文化資源化—G・グロート神父のコレクションを中心として
日比佳代子（明治大学博物館学芸員）

旧明治大学刑事博物館初期蒐集資料の再評価

黒沢 浩（南山大学人文学部准教授）

民族誌資料による文化表象と再文脈化

《討論》

司会 外山 徹（明治大学博物館学芸員）

参加者 49名

6 ボランティア受入

(1) 常設展解説ボランティア研修

研修日程及び内容

日程	研修種別	研修内容
6/3	博物館教育	展示解説の理念と博物館教育の特性
6/3	考古部門1	稲作の伝来と青銅器のマツリ
	考古部門2	東国の古墳文化
6/10	考古部門3	日本の旧石器時代
	考古部門4	縄文時代の貝塚と生業
6/24	刑事部門1	歴史的な法の様々／高札
	刑事部門2	捕者具と江戸時代の警察制度
7/1	刑事部門3	江戸時代の取調べと裁判
	刑事部門4	(仕置と見懲らし・さまざまな刑事博物館)
7/8	商品部門1	漆器の特性
	商品部門2	織技法・染色技法の種別
7/15	商品部門3	陶磁器の種別
	商品部門4	竹木工・金工・文具・和紙
2012 2/17	3部門	フォローアップ研修

(2) 特別展ボランティア

① 漆器 JAPANWARE

受付担当 参加者数 友の会 46名、リバティアカデミー 会員他 2名 計 48名

② 人類史への挑戦

受付担当 参加者数 54名(友の会・リバティアカデミー 会員)

7 情報提供

(1) 印刷物

①明治大学博物館広報紙「ミュージアム・アイズ」
57号、58号 各3,000部

②特別展・企画展印刷物

ア 漆器 JAPANWARE

ポスター 700枚 チラシ 16,000枚

入場券 3,000枚 招待券 7,000枚

図録 1,000部

イ 人類史への挑戦

ポスター 600枚 チラシ 30,000枚

図録 1,000部

※図録は南山大学人類学博物館が制作

③明治大学博物館年報 2010年度 1,050部

④その他

博物館案内リーフレット (A4三ツ折) 20,000部

外国語リーフレット (A4・英語) 20,000部

同 (A4・中国語) 10,000部

同 (A4・韓国語) 10,000部

展覧会案内 2012年 (A4三ツ折) 20,000部

(2) 報道機関等による取材

①新聞・雑誌掲載

＜明治大学博物館紹介＞散歩の達人MOOK『東京都心さんぽ』交通新聞社

＜明治大学博物館紹介＞「神保町公式ガイド」Vol.2 神田古書店連盟

＜明治大学博物館紹介＞「京王沿線 みんなの大学」11月号 京王エージェンシー

＜延岡市との交流事業紹介＞夕刊デイリー2011年12月6日 夕刊デイリー新聞社

＜「吾妻ひでお美少女実験室」紹介＞読売新聞 2011年12月15日 読売新聞社

＜地域交流事業「ふるさと歴史自慢 作文コンテスト」紹介＞夕刊デイリー2012年1月13日～14日 夕刊デイリー新聞社

＜明治大学博物館紹介＞「大学ごはん(仮)」 幻冬舎コミックス

＜「人類史への挑戦」展紹介＞読売新聞 2012年2月15日 読売新聞社

＜「人類史への挑戦」展紹介＞朝日新聞夕刊 2012年3月6日 朝日新聞社

②テレビ放映

＜明治大学博物館紹介＞「がちりアカデミー!!」 TBS テレビ

＜明治大学博物館紹介＞「東京サイト」 テレビ朝日

＜明治大学博物館紹介＞「STYLEBOOK」(再放送) BS朝日

＜明治大学博物館紹介＞「す・またん ZIP!」 読売テレビ

＜明治大学博物館 刑事部門紹介＞「TOKYO EYE」 NHKワールドTV

＜明治大学博物館紹介＞「熱中スタジアム 博物館ナイト 前・後編」 NHK BSプレミアム

＜明治大学博物館紹介＞「教科書にのせたい!」 TBS テレビ

③ラジオ放送・ウェブサイト・その他

＜明治大学博物館紹介＞修学旅行の散歩道 教材研究所スタッフブログ 教材研究所

＜明治大学博物館 刑事部門紹介＞時事ドットコム 時事通信社

＜明治大学博物館紹介＞ナビブラ神保町 風讀社

(3) ミュージアムショップ

①グッズ販売

ア ミュージアムグッズの見本を展示 受付窓口で販売

イ 新商品の開発

・クリアファイル 漆器特別展、精霊像(人類史への挑戦展)

・ポストカード 大塚初重3分スケッチシリーズ No.5・No.6

・子供向けシール13種(各部門、クイズシートの景品)

②他館の情報

大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレット・チラシを配布

③来館者の声

来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示

④友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

⑤博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

8 明治大学博物館友の会

- ①会員数 406名 ※2012年3月31日現在
- ②総会 5月14日(土)
- ③講演会
- ア 総会特別講演会「農耕社会の成立—水田耕作の西から東への波及—」5月14日(土)
講師 明治大学教授 石川 日出志氏
- イ 大塚初重先生講演会「弥生から古墳時代へ—マツリと墓制の変化—」7月6日(水)
講師 明治大学名誉教授 大塚 初重氏
- ウ 「日本考古学2011」9月24日(土)
「石垣島 白保竿根田原洞穴から出土した後期更新世
人骨の意義:骨考古学的アプローチ」
東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命
科学専攻人類進化システム分野准教授 米田 穰
「70体以上の縄文人骨 富山県小竹貝塚調査」
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事
務所主任 町田賢一
「青銅器と鉄器を出土した最北の弥生時代高地性集落
新潟県山元遺跡」
明治大学文学部教授 石川日出志
- エ 学芸員講演会 「延享四年内藤藩の転封」
10月16日(日)
明治大学博物館学芸員 日比佳代子
- オ 会員発表会と学芸員講演会
1月29日(日)
- 第一部
「幻の“塩の道”を探って—貝輪形土製品を検証する
—」吉邑 玲子会員
「『隋書』倭国伝から読取れること—謎の王朝の存在
—」下山 繁昭会員
「北朝鮮の遺跡を訪ねて」福嶋 昌彦会員
「江戸川の開削を検討する」長堀 榮会員
- 第二部 「弥生時代の生・老・病・死」
明治大学博物館学芸員 忽那敬三
- ④見学会
- ア 第9回会員案内による地元見学会 「松戸の史跡めぐり part II」 6月18日(土)
案内:木村 旭志 間宮 勇雄 加藤 知治会員
- イ 「発掘された日本列島2011」 7月29日(金)
解説講師 東京都埋蔵文化財センター 山本幸司、
五十嵐 彰氏
- ウ 特別展関連見学会「北東北の漆文化を訪ねて」
・事前研修会 7月23日(土)
・見学会 10月1日(土)~2日(日)
同行講師 明治大学博物館学芸員 外山 徹
現地講師 二戸市浄法寺総合支所うし振興室長
中村 裕

- エ 「登呂と磐田・浜松の遺跡めぐり」
12月3日(土)~4日(日)
同行講師 明治大学名誉教授 大塚初重
同行講師 明治大学博物館学芸員 忽那敬三
- オ 「明治大学平和教育登戸資料館見学会」
2012年2月18日(土)
現地講師 明治大学文学部教授 山田 朗
- カ 第10回会員案内による地元見学会(バス見学会)
「埼玉県西部地域をめぐる」2012年3月17日(土)
同行講師 明治大学博物館学芸員 島田和高
明治大学文学部兼任講師 金 任仲

⑤広報活動

- ア 会報発行 年4回(春・夏・秋・冬)
- イ 行事案内 友の会ホームページでの情報提供随時
- ウ 友の会掲示板の活用、行事チラシの作成

⑥博物館への協力

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	20名
展示解説員	(火)(木)(金)	28名
漆器 JAPANWARE 受付業務	2011年6月~7月	46名
人類史への挑戦 受付業務	2012年1月~3月	51名

⑦学習サークル(活動原則として月1回)

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	32名	外山学芸員・ 森朋久※1
平成内藤家文書研究会	18名	伊能秀明※2
工芸の会	15名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	15名	島田学芸員
弥生文化研究会	25名	忽那学芸員
草生水の会	6名	
古文書の基礎を学ぶ会	26名	日比学芸員
東アジアの中の古代日本 研究会	23名	

※1 明治大学農学部兼任講師

※2 中央図書館事務長

Ⅲ 研究活動その他

1 調査研究活動

(1) 商品部門

① 伝統陶磁器小売店調査

ア うつわのみせ大文字 (2011 年 9 月 12 日・28 日、10 月 7 日)

イ 丸岡陶苑 (2011 年 9 月 15 日)

ウ 陶柿園 (2011 年 9 月 15 日)

エ うつわまるかく (2011 年 9 月 16 日)

オ 東京賞美堂 (2011 年 9 月 16 日)

専門店における伝統陶磁器の販売動向(ア)～(オ)、消費者の動向などに関するヒアリング調査(ア)。

② 伝統陶磁器卸売商社調査

ア 有限会社金照堂(有田焼・2011 年 12 月 5 日)

イ 株式会社キハラ(有田焼・2011 年 12 月 5 日)

有田における卸売商社の動向について(ア)、新商品の開発動向について(イ)

(2) 刑事部門

① 内藤家文書研究の促進

ア 儀礼、芸能を中心とした内藤家文書の所在調査 (2011 年 6 月 6～8 日)

参加者 法学部土屋恵一郎教授、文学部落合弘樹教授、日比佳代子、内藤記念館増田豪学芸員、茨城大学磯田道史准教授、跡見学園女子大学文学部横山太郎教授

イ 所在調査結果をふまえた重要史料の撮影 (2011 年 6 月 28, 30 日)

ウ 所在調査結果をふまえた重要史料の翻刻

② 研究会の開催

ア 文学部落合弘樹教授、牛米努博物館研究調査員の指導のもと、定期的に内藤家文書を対象とした研究会を開催。

③ 外部研究への参画

科研基盤研究(B) 代表者高橋実「幕藩政アーカイブズの総合的調査・研究」に研究協力者として参加(日比佳代子)

(3) 考古部門

① 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

2010 年度に黒耀石研究センターは博物館から研究・知財戦略機構に移管され、同機構附属研究施設に位置付けられた。新たに設置されたセンター員に島田学芸員が委嘱され、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ヒト-資源環境系の歴史的変遷に基づく先史時代人類誌の構築」(研究期間:2011 年度～2015 年度、研究代表者:小野昭;研究・知財戦略機構特任教授)の研究分担者となっている。関連する研究活動は以下のとおり。

ア 7 月 20～7 月 29 日:スイス・ベルン(第 18 回国際第四紀学連合コンGRESSにおける口頭発表および資料調査)、同行者:小野昭

イ 8 月 16 日～8 月 25 日:長野県小県郡長和町(広原湿原および周辺遺跡における考古・古環境調査の実施)

ウ ロシア・ウラジオストック、ウスリークス(玄武岩台地における黒耀石原産地の踏査)、同行者:小野昭、杉原重夫ほか

※以上は、2012 年度特別展準備に関する資料調査・研究を兼ねている。

② 展示方法の視察及び館蔵資料関連遺物の調査

横浜県立歴史博物館、島根県立古代出雲歴史博物館、西谷墳墓群史跡公園、加茂岩倉遺跡、荒神谷博物館・史跡公園、松江市出雲玉造資料館、大阪府立弥生文化博物館、浜松市博物館、毛野考古学研究所、出雲弥生の森博物館

③ 玉里舟塚古墳埴輪、前場幸治瓦資料整理作業

④ 購入・寄贈資料に関わる調査

日本窯業史研究所、大英博物館

2 学芸員の研究業績

外山 徹

【著書】

『漆器 JAPANWARE 文理融合型研究から見えてきた漆の過去・現在・未来』(明治大学博物館、2011 年 6 月 86p・共著)

『武州高尾山の歴史と信仰』(株式会社同成社、2011 年 11 月 212p・単著)

【論文等】

「高尾山薬王院をめぐる宗教者群像」(『多摩のあゆみ』145、2012 年 2 月)

「伝統工芸有田焼の商品開発動向—歴史的な前提から第2次大戦後・現代まで—」(『明治大学博物館研究報告』17、2012年3月)

「これまでの議論を振り返って」(『明治大学学芸員養成課程年報』27・特集日本の地域博物館シンポジウム9、2012年3月)

【学会報告等】

大学博物館連携における諸課題—合同展覧会の開催を通して—(南山学会シンポジウム「博物館のキズナ」2011年11月)

これまでの議論を振り返って(日本の地域博物館シンポジウム9「博物館学芸員の地域的活動について」明治大学博物館学研究会他主催、2011年12月)

島田和高

【論文ほか】

「後期旧石器時代 武蔵野台地における黒曜石の利用と展開—ナイフ形石器文化後半期を中心に—」『研究発表資料集』pp.17-25. 日本考古学協会 2011年度栃木大会実行委員会

「黒曜石資源の開発と環状ブロック群—日本列島人類文化の起源を探る—」『リバティアカデミーブックレット 黒曜石をめぐるヒトと資源利用』明治大学リバティアカデミー

「後期旧石器時代初頭における環状ブロック群と現代人の拡散(1)」『ミュージアム・アイズ』57 pp.10-11. 明治大学博物館

「後期旧石器時代初頭における環状ブロック群と現代人の拡散(2)」『ミュージアム・アイズ』58 pp.10-11. 明治大学博物館

「ヨーロッパの旧石器時代」『図録 人類史への挑戦 南山大学考古・民族コレクション』pp.11-12. 南山大学人類学博物館

「矢出川遺跡から出土した未詳原産地製黒曜石遺物の記載岩石学・岩石化学的特徴—いわゆるNK産黒曜石の解明に向けての基礎的研究—」『明治大学博物館研究報告』明治大学博物館(長井雅史・金成太郎・柴田徹・島田和高・杉原重夫)

【学会発表】

2011年7月21日～27日: Archaeological Evidence for the Emergence of Modern Human Behavior in the Japanese Archipelago. At the Session #33, XVIII INQUA (International Union for Quaternary Research) Congress, Bern, Switzerland.

2011年10月15日: 「後期旧石器時代 武蔵野台地における黒曜石の利用と展開—ナイフ形石器文化後半期を中心に—」日本考古学協会 2011年度大会『シンポジウム I 石器時代における石材利用の地域相—黒曜石を中心として—』國學院大学栃木学園教育センター

2011年11月30日: Evidence for Obsidian marine Transportation in the Early Upper Paleolithic of Japan.

(Shimada, K., and Ikeya, N.), Symposium on the Emergence and Diversity of modern Human Behavior in Paleolithic Asia. National Museum of Nature and Science, Tokyo, Japan.

日比佳代子

【論文】

「久留米藩における寛政四年在方諸割賦の主法替りと大庄屋」(志村洋・吉田伸之編、史学会シンポジウム叢書『近世の地域と中間権力』山川出版社、2011年12月)

忽那敬三

【論文等】

「弥生人のライフプロセス」(『弥生時代の考古学』第9巻 同成社、2011年11月)

3 刊行物

①『明治大学博物館研究報告』第17号 1,000部

〈研究報告〉

福田康典「製品の意味の動態性: 動態の2つの局面」

〈研究ノート〉

遠藤英子、高瀬克範「レプリカ法による愛知県西志賀遺跡出土土器の研究」

外山 徹「伝統工芸有田焼の商品開発動向—歴史的な前提から第2次大戦後・現代まで—」

〈資料報告〉

比田井民子・金成太郎・杉原重夫「武蔵野台地立川ローム層最下層出土の黒曜石資料をめぐる諸問題と原産地推定—武蔵台遺跡・多摩蘭坂遺跡・鎌ヶ谷遺跡について—」

長井雅史、金成太郎、柴田徹、島田和高、杉原重夫

「矢出川遺跡から出土した未詳原産地製黒曜石遺物の記載岩石学・岩石化学的特徴—いわゆるNK産黒曜石の解明に向けての基礎的研究—」

小川祐貴子「仮名垣魯文・文 落合芳幾・画 心学身之要慎」

小野孝太郎「高千穂押方村郷足軽佐藤平次郎敵討一件」延岡藩での敵討ちと在地社会の刑事事件処理の事例」

〈特別講義抄録〉

伝統的工芸品の経営とマーケティング・プロジェクト推進部会「和食器専門店から見た伝統工芸の今」

〈資料目録〉

明治大学博物館「内藤家伝来印章資料目録」

②特別展図録『漆器 JAPANWARE 文理融合型研究から見えてきた漆の過去・現在・未来』 1,000部

外山徹「漆をみる視線」

本多貴之「漆器の化学分析からわかったこと」

阿部芳郎「縄文時代の漆文化」
 追川吉生「明治大学記念館前遺跡から出土した漆器
 碗」
 宮里正子「アジアの漆文化～琉球王国と東南アジアの
 漆文化～」
 漆原拓也「日本の伝統的工芸品の海外展開事情につ
 いて」
 宮腰哲雄「次世代機能材料としての漆」

4 大久保忠和考古学振興基金

(1) 募集要項

この基金は、本大学文学部史学地理学科考古学専攻
 第 41 期卒業生の故大久保忠和氏の遺志を生かすため、
 ご遺族から寄せられた指定寄付金をもとに設置されました。
 基金は、考古学および博物館にかかわる、優れた調査・
 研究を奨励することにより、考古学の振興および博物館の
 発展に寄与することを目的としています。
 2011 年度の募集要項は、以下のとおりです。

1. 対象となる研究

考古学および博物館にかかわる調査と研究。

2. 応募資格および条件

本学の考古学専攻在籍者(大学院生に限る)・考古学
 専攻卒業生・教職員・博物館友の会会員および関係者が
 推薦する者。友の会会員の場合は、入会から3年以上を
 経過した会員を対象とします。なお、本奨励金は、主に科
 学研究費補助金等の公的助成金に申請資格を有さない
 研究者の支援を趣旨としています。

3. 奨励金額

公募研究A: 個人による調査と研究に対する奨励

A-1: 研究期間 1 年間(交付から 2011 年 3 月まで)

1 件 20 万円以内とします。

A-2: 研究期間 2 年間(交付から 2012 年 3 月まで)

1 件 40 万円以内とします。

公募研究B: 複数の研究者による共同の調査と研究に対
 する奨励

B-1: 研究期間 2 年間(交付から 2012 年 3 月まで)

1 件 100 万円以内とします。

B-2: 研究期間 3 年間(交付から 2013 年 3 月まで)

1 件 200 万円以内とします。

4. 審査と交付

本学博物館に設置されている大久保忠和考古学振興
 基金運営委員会において、研究計画調書の内容にもとづ
 いて厳正に審査・選考した上で、2011 年4月下旬までに
 応募者に採否および奨励金額を通知し、採択者には5月

下旬までに博物館にて奨励金をお渡しいたします。日時
 はあらためて通知します。なお、採否の理由についての
 照会には、一切回答いたしかねますのでご了承下さい。
 また、本奨励金は個人所得となりますので、所得税源泉
 徴収後の金額が支給金額となります。

5. 研究成果について

本基金による調査・研究の成果については、下記のよう
 に報告・公表することが義務となります。

(1) 行った研究に関する概要レポート(A4判で1枚程度)
 を交付から単年度ごと(当該年度の3月末日まで)に
 博物館事務室まで提出して下さい。

(2) 研究期間の終了後、1年以内に下記の刊行物等で
 研究成果を発表して下さい。

①『駿台史学』『明治大学博物館研究報告』等の学
 内学術刊行物(投稿規程がありますので、事前
 にご一報ください)

②学外の考古学・博物館学関係の学術雑誌・研究紀
 要もしくは単行本等

※いずれの場合でも「2011年度明治大学大久保忠和
 考古学振興基金」の成果であることを明記して下さい。

※なお、単行本など冊子体での成果報告を行う場合、
 本基金にもとづく「研究成果刊行助成金」(200万円
 以内)を別途設けています。詳細は、下記連絡先ま
 でお問い合わせください。

(3) 掲載誌等(抜刷可)を2部提出して下さい。

(4) 支出した経費内訳一覧とこれに対応する旅費交通費
 を含む領収書(コピー可)を研究期間終了後1ヶ月以
 内に博物館事務室に提出して下さい。

6. 応募期間

2011年3月1日(火)～3月31日(木)必着

7. 申し込み方法

所定の研究計画調書様式に必要事項を記入・押印のう
 え、上記期間内に下記あてに郵送していただくか、もし
 くはご持参下さい。研究計画調書様式は適宜 PC で作成し
 ていただいて結構ですが、電子版をご用意の方は、下記
 eメールアドレスまでご連絡ください。

なお、ご不明な点は、明治大学博物館 島田和高(考古
 部門担当学芸員)までお問い合わせ下さい。

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

明治大学博物館

大久保忠和考古学振興基金運営委員会事務局宛

TEL 03-3296-4431,4448 FAX 03-3296-4365

e-mail: ma96018@mics.meiji.ac.jp(島田)

(2) 2011年度奨励者

A 公募研究(単独)

A-1(個人研究 研究期間:1ヵ年)

河野正訓「古墳時代における農具鉄製刃先の歴史的意義」

轟 直行「東京湾周辺における弥生時代後期の様相」

中岡貴裕「地域博物館と公共の概念について」

平田 健「絵葉書による日本考古学史の構築に関する基礎的研究」

A-2(個人研究 研究期間:2ヵ年)

小野真嗣「茨城県西地域の石造物調査と考察」

佐藤祐樹「埋もれた考古遺物の資料化と集落景観の復原」

B 公募研究(共同)

B-2(共同研究 研究期間:3ヵ年)

船木義勝(研究代表者)「古代末期の土器編年構築と集落遺跡の特質からみた、北東北世界の実態的研究」

三浦茂三郎(研究代表者)「群馬県雷電神社古墳出土埴輪の基礎的研究」



社会連携—宮崎県・延岡市との交流事業、
小中高生対象の作文コンテスト p17~18



大久保忠和考古学振興基金の研究発表会
(2010年度授与者)



大学間連携—南山大学人類学博物館との
合同シンポジウム p18



社会連携—内藤家文書の故地、
宮崎県延岡市での出張講演会 p17~18



大学間連携—南山大学人類学博物館との
合同特別展開幕式 p10

IV 収蔵資料

(1) 資料収集

①資料数(部門別)

		刑事	考古	商品	合計
受 入	購入	14	21	10	45
	受贈	10,566	1	1	10,568
合計		10,580	22	11	10,613
前年度総数		204,201	78,654	7,793	290,648
資料総数		214,781	78,676	7,804	301,261

②購入資料一覧

種別・分類	資料名
刑事関係 器物	変わり形突棒 鑑札・太田金山松茸採取 鑑札・上州安中絹繭仲間 鑑札・中牛馬会社 捕縄仕様人形秘伝
刑事関係 外国書絵図	中国刑罰図譜
刑事関係 和書、古文書	江都官録秘鑑 生漆製ミツタ油代金仕立帳 寛永年中 転び切支丹寺請状 (3点)
錦絵	伽羅先代萩 松枝蜂之助光重 木下曾我恵☆路
絵図	江戸大火火消し戯画卷
考古遺物 (レプリカ制作)	茨城県玉里舟塚古墳出土人物埴輪(鉢 巻をする男)レプリカ制作(古墳時代) 茨城県三味塚古墳出土衝角付冑復元品 制作(古墳時代)
考古遺物 (レプリカ)	更新世絶滅動物化石レプリカ ケナガマンモス頭骨 ホラアナライオン頭骨 ホラアナグマ頭骨 スミロドン頭骨
考古遺物	大川清氏旧蔵瓦 15点
商品資料	株式会社源右衛門窯製品 緑彩松竹紋 飯碗 祥瑞手梅鳥 飯碗 染錦丸紋割 湯呑 赤絵丸紋割 湯呑 染錦紫牡丹絵 マグカップ 緑彩葡萄絵 方皿

染付芙蓉手 (深) 皿
染錦牡丹丸紋 皿
赤絵梅地紋 (梅形) 鉢
初期伊万里風牡丹絵 小皿

③受贈資料

資料名
島田正郎教授旧蔵フィルム (10,412点)
明治大学五十年史 (1冊)
古代中国青銅剣 (1点)
内藤家旧蔵印章 (145点)
〃 漆螺鈿小筆筒 (1点)
〃 木製印箱 (1点)
〃 木製印箱 (4点)
〃 古文書 (2点)
タイプライター (SMITH-CORONA 社製)

④資料修復

内藤家文書「海上の図」(総裏打ち仕立て直し)
記念館前遺跡出土木製品の保存処理 27件

(2) 資料整理

①商品部門

ア 2010・11 年度収蔵資料カード台帳作成
イ 収蔵資料所在調査・再配架(漆器・染織品)
ウ 時田ことわざコレクション装備・配架

②刑事部門

ア 内藤家文書近世・近代史料の整理、中性紙封筒、
アーカイバル容器への詰め替え(継続中)
イ 内藤家伝来印章資料の整理、目録作成
ウ マイクロフィルム等2次資料整理(継続中)
エ 内藤家文書目録修正によるデータ校訂
オ 購入資料棚卸し作業

③考古部門

ア 坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備
イ 茨城県舟塚古墳出土埴輪資料の整理
ウ ガラス乾板の保存処置
エ 収蔵資料の所在確認
オ 前場幸治瓦コレクションの整理(明治大学古代学
研究所と共同作業)

(3) 資料記録

①撮影

ア 商品部門

2011 年度特別展出展資料 4 点 1 カット
長持 1 点 2 カット

イ 刑事部門

内藤家文書芸能関係古文書デジタル撮影 10 件
(487 カット)
法制史関係など収蔵史料 4×5 ポジ撮影 2 件(37
カット)

ウ 考古部門

前場資料撮影 6080 カット
デジタルコンテンツ用立体撮影 7 点

②デジタル化

ア 商品部門

2011 年度特別展出展資料 4 点 1 カット
長持 1 点 2 カット

イ 刑事部門

法制史関係など収蔵史料 12 件(47 カット)

ウ 考古部門

PCDデータのTIFF・JPEGデータ移行 652 点

b 延岡市内藤記念館

企画展『『天下一』薪能と延岡～内藤家旧蔵の能面～』
展示期間:2011 年 9 月 17 日～10 月 10 日
内藤家文書 1-28-22「祭礼並祈禱代参諸遷宮神事能
取嚙」他 計 6 点

c 埼玉県立歴史と民俗の博物館

特別展「大名と藩—天下泰平の立役者たち—」
会期:2012 年 3 月 20 日～5 月 6 日
内藤家文書 江戸幕府老中連署奉書 (寛永 16 年)
9 月 10 日 他 計 2 点

イ 考古部門

a 東京国立博物館

継続出品
期間:2011 年 7 月 1 日～2014 年 6 月 30 日
重要文化財 神奈川県夏島貝塚出土深鉢形土器 1 点

b 岩宿博物館

岩宿博物館 2 階常設展示室に展示
展示予定期間:2011 年 6 月 13 日～11 月 14 日
重要文化財 群馬県岩宿遺跡出土品 計 40 点

c 大阪府立弥生文化博物館

平成 23 年度夏季特別展「豊饒をもたらす響き 銅鐸」
会期:2011 年 7 月 16 日～9 月 11 日
明治大学 1 号銅鐸(A105) 計 1 点

d 浜松市博物館

平成 23 年度特別展「銅鐸から銅鏡へ」
開催期間:2011 年 7 月 23 日～9 月 4 日
袈裟襷紋銅鐸 3 号 計 1 点

e 埼玉県立さきたま史跡の博物館

企画展「スローフードの考古学」
展示公開期間:2011 年 10 月 8 日～11 月 27 日
岩手県雨滝遺跡出土縄文土器 他 計 14 点

f 岩宿博物館

常設展示室(「岩宿時代のムラと社会」・「岩宿文化の地
域性」のコーナーに展示)
貸出期間:2011 年 7 月 1 日～2012 年 6 月 30 日
群馬県武井遺跡出土石器 他 計 330 点

g 横芝光町立図書館町民ギャラリー

企画展
展示期間:2011 年 9 月 3 日～10 月 16 日
後漢鏡 内行花文鏡(資料番号 A-194) 他 計 2 面

h 九州国立博物館

文化交流展示「海の道、アジアの路」
貸出期間:2011 年 10 月上旬～2012 年 1 月 25 日
佐賀県平沢良遺跡出土ナイフ形石器 他 計 6 点

i 神奈川県立歴史博物館・小田原市郷土文化館・厚木市郷土資料館

平成 23 年度かながわの遺跡展・巡回展「弥生時代のか
ながわ —移住者たちのムラと社会の変化—」
貸出期間:2011 年 12 月 12 日～2012 年 3 月 21 日
神奈川県赤坂遺跡出土鉄斧 計 1 点

(4) 資料利用

①資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事部門	考古部門	商品部門	合計
一次資料 出品数	10 点	598 点	—	608 点
レプリカ等 出品数	0 点	0 点	—	0 点
掲載等	534 点	207 点	—	741 点
撮影	1432 点	6 点	—	1438 点
合計	202 件 1976 点	101 件 811 点	— —	—

②収蔵資料閲覧

調 査 閲 覧 人 数	刑事部門		考古部門
	古文書	マイクロ	
	3653 点	20 リール	72 件
	132 名		

③貸出先・展覧会・出展資料一覧

ア 刑事部門

a 中央区立郷土天文館

第 12 回特別展「石橋開橋百周年記念 日本橋一人を
つなぐ・時代をつなぐ—」
期間:2011 年 10 月 15 日～11 月 27 日
目録番号:65「定 鉄砲打候者取締に付」貞享二年 二
月日 他 計 2 点

- j 上高津貝塚ふるさと歴史の広場
第 17 回企画展「海と河と縄文人—霞ヶ浦の古環境と遺跡—」
貸出期間:2012 年 2 月 21 日～5 月 31 日
茨城県法堂遺跡出土製塩土器片 他 計 6 点
- k 東京大学総合研究博物館
特別展示「アルケオメトリア (Archaeometria) —考古遺物・美術工芸品を科学の眼で透かし見る—」展
貸出期間:2012 年 2 月 20 日～6 月 22 日
岩手県雨滝遺跡出土漆器 (J34-310、J34-320)
他 計 4 点
- l 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館
国立歴史民俗博物館総合展示「日本文化のあけぼの」
期間:2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日
佐賀県茶園原遺跡出土尖頭器 計 10 点
- m 財団法人東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター
東京都立埋蔵文化財調査センター展示室 平成 24 年度通史展示及び企画展「縄文人の食事」
貸出期間:2012 年 2 月 22 日～2013 年 3 月 31 日
茨城県法堂遺跡出土品 計 12 点
- n 岩手県立博物館
岩手県立博物館常設展示
貸出期間:2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日
岩手県雨滝遺跡出土資料 計 29 点
- o 港区教育委員会
港区立港郷土資料館 常設展示
貸出期間:2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日
東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計 109 点
- p MIHO MUSEUM
平成 24 年秋季特別展「土偶・コスモス」
展覧会期間:2012 年 9 月 1 日～12 月 9 日
千葉県江原台遺跡出土山形土偶 計 1 点
- ④貸出先・資料利用・出展資料一覧
考古部門
南山大学人類学博物館
講座および学部・大学院での授業にて、教育目的で使用
期間:2011 年 4 月～2013 年 4 月
北海道置戸安住遺跡出土剥片 計 31 点
- ⑤掲載一覧
＜板倉家文書＞『亀山市史』(ウェブ版・書籍版) 亀山市
＜『徳川幕府刑事図譜』『捕縛の図(凶悪犯のはしご捕り)』他＞朝日ジュニアシリーズ『週刊 新マンガ日本史』第 33 号「徳川吉宗」朝日新聞出版
＜鳥屋天野家文書 他＞『津久井町史 資料編近世 2』相模原市
＜『江戸名所図会』の内「駿河町三井呉服店」(刑事部門所蔵)＞外山徹「高尾山歴史探訪 94 文化六年江戸田舎日護摩講中元帳 4」(『高尾山報 568 号』) 大本山高尾山薬王院
＜禁中並公家中諸法度＞藤田覚『天皇の歴史』第 6 巻「江戸時代の天皇」講談社
＜内藤家文書 内藤充真日記「五十三次ねむりの合いの手」＞渡邊博吏「ばんば踊り考」(平成 23 年度内藤家顕彰会会報「亀井」) 内藤家顕彰会
＜錦絵「神田昌平橋模様替掛換眼鏡橋要路光景之図」＞「天然ガス」天然ガス鉱業会
＜今川仮名目録追加＞「歴史秘話ヒストリア 苦しいときこそ我が見せ場! ～“信長おじさま”青春逆転日記～」NHKオンデマンド
＜地方測量之図＞「国語テスト 6 年下巻」青葉出版
＜『徳川幕府刑事図譜』「毒妓客を偽るの図」＞University of Wisconsin-Madison Japanese Visual Culture クラス課題ビデオ
＜地方測量之図＞『もういちど読む山川日本史』デジタル版(シャープの電子書籍端末＜GALAPAGOS＞向け) 山川出版社
＜藤波家文書「勘文 大嘗会ニ付(稻春譚、神楽譚)」＞久水俊和『室町期の朝廷公事と公武関係』岩田書院
＜『徳川幕府刑事図譜』「捕縛の図(十手の使用法)」他＞「サンデー! スクランブル」テレビ朝日
＜今川仮名目録追加＞『その時歴史が動いた 傑作 DVD マガジン 戦国時代編 第 9 巻』NHK エンタープライズ
＜『徳川幕府刑事図譜』「白洲の図」他＞「タイムスクープハンター スペシャル 幕末決死行! ～江戸牢獄・限界長屋の実態～」NHK
＜『THE PUNISHMENT OF CHINA』「A Malefactor chained to Iron Bar」＞鈴木秀光「鎖帯鉄桿・鎖帯石礮と清代後期刑事裁判」(『法学』第 75 巻第 5 号) 東北大学法学会
＜帝都復興記念分間大江戸絵図(刑事部門所蔵・2007 年度収集品)＞外山徹「高尾山歴史探訪 95 文化六年江戸田舎日護摩講中元帳 5」(『高尾山報』569 号) 大本山高尾山薬王院
＜『徳川幕府刑事図譜』「旧江戸伝馬町牢獄内 昼の図」＞『隔週刊 鬼平犯科帳 DVD コレクション』第 23 号 デアゴスティーニ・ジャパン
＜『徳川幕府刑事図譜』「遠島出船の図」＞「空から日本を見てみよう #66 伊豆諸島スペシャル」テレビ東京
＜時世のぼり風＞『週刊江戸』第 77 号 デアゴスティーニ・ジャパン
＜地方測量之図＞「社会科テスト 2 学期 6 年」評価問題研究所
＜往古うはなり打の図＞「タイムスクープハンター」NHK 総合
＜往古うはなり打の図＞「タイムスクープハンター」(再放送) NHK 総合・NHK BS・NHK オンデマンド

- <刑事部門展示資料 他>歴史秘話ヒストリア「正義」の話をいたそう!～大岡越前 白熱裁判～」NHK総合 ※日本航空国際線個人用シートTV(VOD)にて上映
 <ニュルンベルクの鉄の処女 他>『江戸・東京 歴史ミステリーを歩く』PHP研究所
 <邪蘇宗門御改帳 延宝五年>「2011年 第2回全統マーク模試」河合塾
 <ニュルンベルクの鉄の処女 他>『[図説] 世界の処刑と拷問 改訂版』笠倉出版社
 <呼子笛 他>『歴史群像シリーズ特別編集【決定版】図説 侍入門』学研パブリッシング
 <帝都復興記念分間大江戸絵図(刑事部門所蔵・2007年度収集品)>外山徹「高尾山歴史探訪 96 文化六年江戸田舎日護摩講中元帳 6」(『高尾山報』570号) 大本山高尾山薬王院
 <『徳川幕府刑事図譜』「遠島出船の図」>『新・国語の学習』光村図書版・三省堂版 正進社
 <高札 太政官札 キリシタン禁制(慶応4年)>2011年度後期(高3・高卒生対象)『日本史写真資料集』河合塾
 <地方測量之図>『社会科資料集6年』日本標準
 <『徳川幕府刑事図譜』「拷問の図(海老責)」>「歴史秘話ヒストリア 「正義」の話をいたそう!～大岡越前 白熱裁判～」NHKオンデマンド
 <生麦発殺之図>『週刊江戸』第86号「昨日の敵は今日の友」デアゴスティーニ・ジャパン
 <『徳川幕府刑事図譜』「白洲の図」>「開運!なんでも鑑定団」テレビ東京
 <御成敗式目>小和田哲男監修『一冊でわかる 芸術・美術・建築からわかる日本史』成美堂出版
 <駿府町奉行与力大野家文書70 享保5年～明治25年 大野家諸事留書>樋口雄彦「静岡藩士の割付をめぐる」(『静岡県近代史研究』第36号) 静岡県近代史研究会
 <生麦発殺之図>月刊『歴史人』2011年10月号 ベストセラーズ
 <禁中並公家諸法度>藤井讓治『日本近世の歴史 1 天下人の時代』吉川弘文館
 <今川仮名目録>『戦国武将データファイル』第78号 デアゴスティーニ・ジャパン
 <武家諸法度 巻頭 他>「BS 歴史館 シリーズ あなたの常識大逆転!(1) “お犬様”騒動 隠された真実～徳川綱吉は名君だった!?!」NHK・BSプレミアム
 <『徳川幕府刑事図譜』「御様の図」>『週刊江戸』第90号 デアゴスティーニ・ジャパン
 <「金原之郡金山之郷検地帳」>『戦国甲冑を作る』第42号 デアゴスティーニ・ジャパン
 <内藤家文書 1-28-078-01 台雲寺末寺由緒書千光寺(津波)>「UMK スーパーニュース」テレビ宮崎
 <『徳川幕府刑事図譜』「旧江戸市内自身番の図」>『オールカラーでわかる!江戸庶民の24時間』PHP研究所
 <『徳川幕府刑事図譜』「捕縛の図(十手の使用法)」他>『ビジュアル版 江戸の町と暮らしがわかる本』メイツ出版
 <『徳川幕府刑事図譜』「捕縛の図(捕縄のない緊急時、毒婦の逮捕)」他>ニュースサイト「時事ドットコム」時事通信社
 <萩原龍夫旧蔵資料 古文書 187:『天王祭礼引付帳』他>萩原龍夫旧蔵資料研究会編『村落・宮座研究の継承と展開(岩田書院ブックレット歴史考古学系)』岩田書院
 <名和コレクション 鉄製目明し十手 他>月刊『歴史人』11月号 特集「江戸の暮らし」ベストセラーズ
 <ニュルンベルクの鉄の処女 他>「NintendoDS 観光案内ソフト(仮)」JTB パブリッシング
 <『百科全書』>『明治大学創立期財務資料』(仮)
 <『徳川幕府刑事図譜』「白洲の図」他>『新・国語の学習』東京書籍版 正進社
 <水戸藩小石川御屋敷御庭之図>『別冊歴史 REAL 歩く・観る・学ぶ 江戸の大名屋敷』洋泉社
 <鑑札 株仲間札>「さかのぼり日本史 江戸“天下泰平”の礎」第2回 飢饉が生んだ大改革 NHK教育
 <ニュルンベルクの鉄の処女>「みんなの大学 Vol.7」京王エージェンシー
 <長祿江戸図>日比谷図書文化館常設展示「フィールドミュージアム 環境・人間・都市」写真パネル及び映像
 <元和2(1616)年12月10日 瀏江之内六衣新田開之事>平成23年度特別展『浪人たちのフロンティア』展示パネル・図録 足立区立郷土博物館
 <時田昌瑞ことわざコレクション>資料保存器材ホームページ プリベンティブコンサベーション(予防的保存対策)事例掲載
 <内藤家文書 内藤充真院繁子道中記「五十三次ねむりの合いの手」>「UMK スーパーニュース」テレビ宮崎
 <真鍮製丸型十手 他>山本博文『江戸のお白洲 史料が語る犯科帳の真実』文藝春秋
 <『徳川幕府刑事図譜』「捕縛の図(十手の使用法)」他>『江戸残酷物語』双葉社
 <出羽国村山郡山口村文書 他>渡辺尚志編著『東北の村の近世』東京堂出版
 <『徳川幕府刑事図譜』「不義の娘親に引き渡されたる図」他>「ジョージ・ポットマンの平成史」テレビ東京
 <往古うハなり打の図>DVD「タイムスクープハンター シーズン3」NHK エンタープライズ
 <マリア・テレジア刑事法典 他>「教科書にのせたい!」TBS テレビ
 <出雲国松江藩小豆沢家文書>松江市ホームページ内市史編纂コラム
 <高札 切支丹禁制(正徳元年)>『戦国甲冑をつくる』第53号 デアゴスティーニ・ジャパン
 <内藤家文書 3-23-日向延岡関係絵図 35-6 有馬家

- 中延岡城下屋敷付絵図 他>延岡拘置支所新営工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書『延岡城内遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター
- <莫産 他>CD 付きマガジン『落語 昭和の名人 完結編』第24巻 小学館
- <「牢内深秘録」 他>『彩色大江戸事典』双葉社
- <今川仮名目録追加>DVD「歴史秘話ヒストリア 戦国武将編2」NHKエンタープライズ
- <踏絵(レプリカ)>『国語活用資料集』新学社
- <時田ことわざコレクション めんこ一式>日本ことわざ文化学会・編『教育とことわざ』人間の科学新社
- <内藤家文書 内藤充真院日記「五十三次ねむりの合いの手」 他>「につぼん歴史街道」日向街道編 BS-TBS
- <生類憐み令>『教科書に出てくる 歴史人物・文化遺産』学研教育出版
- <地方測量之図>『もういちど読む山川日本史』デジタル版(Android 端末向け) 山川出版社
- <会津若松戦争之図>「につぼん歴史街道」BS-TBS
- <名和コレクション 南北町奉行所 同心の十手>『中学生の社会科歴史ノート』東京書籍版および帝国書院版 吉野教育図書
- <禁中並公家中諸法度>「超歴史ロマン大江戸ミステリー完全決着 SP」テレビ東京
- <『徳川幕府刑事図譜』「切腹の図」>「100分 de 名著」新渡戸稲造「武士道」NHK Eテレ
- <名和コレクション 捕者三つ道具 他>『古地図で歩く大江戸捕物帳 半七、鬼平の舞台を訪ねる』平凡社
- <『徳川幕府刑事図譜』「斬罪仕置の図」 他>山本博文『100分 de 名著 新渡戸稲造 武士道』NHK出版
- <刑事部門展示場風景(鉄の処女) 他>「小町テレビ」日テレ G+ Tokyo MX テレビ埼玉 福島中央テレビ
- <マリア・テレジア刑事法典 他>「教科書にのせたい！」(再放送) TBS テレビ
- <武家諸法度>『別冊 REAL 歩く・観る・学ぶ 江戸の参勤交代と大名行列』洋泉社
- <『徳川幕府刑事図譜』「拷問の図(笞打)」>「歴史スペシャル 追跡! 17世紀最大の武器密輸事件」KBS
- <内藤家文書近代史料 他>小川原正道『福澤諭吉の政治思想』慶應義塾大学出版会
- <相模国足柄上郡千津嶋村瀬戸家文書 状の部 土地63 宝永2年正月「覚(質地売渡覚)」>荒木仁朗「近世前期永代売買の内実—「帰り永代」慣行と返り手形—」(『神奈川地域史研究』29号) 神奈川地域史研究会
- <相模国足柄上郡千津嶋村瀬戸家文書 状の部 土地51 元禄8年12月10日「永代ニ売渡シ申居屋敷之事」>荒木仁朗「一七・八世紀における債務処理をめぐる一証文類の検討を通じて—」(『駿台史学』145号) 駿台史学会
- <『徳川幕府刑事図譜』「白洲の図」>「ジョージ・ポットマンの平成史 Vol.1&2」DVD・インターネット配信 テレビ東京
- <武家諸法度 他>映像教材「ハイビジョンライブラリ」東京書籍
- <『徳川幕府刑事図譜』「白洲の図」>Darryl Flaherty『Public Law, Private Practice: Politics, Profit, and the Legal Profession in Nineteenth-Century Japan』ハーバード大学出版
- <地方測量之図>2012年度版『社会4年デイリーサピックス440-08』ジーニアスエデュケーション
- <出羽国村山郡観音寺村絵図>『新日本史B』実教出版
- <鎖鎌(石見守直次作)>ネットミュージアム兵庫文学館 企画展示「宮本武蔵 力と美」
- <水戸藩小石川御屋敷御庭之図>「緑と水のひろば」第67号 東京都公園協会
- <禁中並公家諸法度 他>洋泉社 MOOK『歴史 REAL vol.6』洋泉社
- <令集解>「ジョージ・ポットマンの平成史」テレビ東京
- <武家諸法度 巻頭 他>「BS 歴史館 シリーズ あなたの常識大逆転! (1) “お犬様”騒動 隠された真実〜徳川綱吉は名君だった! ?」NHK オンデマンド
- <内藤家文書 1-24-469 宮崎郡限手形御振出万覚書>牧貴『宮崎商人[掛屋の歴史]』
- <鑑札 株仲間札>「さかのぼり日本史 江戸“天下泰平”の礎 第2回 飢饉が生んだ大改革」NHKオンデマンド
- <地方測量之図>文部科学省教材「学びのイノベーション事業【小学校デジタル教材の研究開発】(社会)」東京書籍
- <邪蘇宗門御改帳 延宝五年>「2013マーク式総合問題集 日本史B」河合出版
- <内藤家文書 万覚書(文化7年4月5日条)>『宮崎県総合博物館研究紀要』(第32輯) 宮崎県総合博物館
- <仮名目録追加>小和田哲男『歴史人』別冊「完全保存版 決定! 戦国武将最強ランキング」KKベストセラーズ
- <『徳川幕府刑事図譜』「拷問の図(笞打)」 他>青木人志『グラフィック法学入門』新世社
- <今川仮名目録 他>高橋伸幸 月刊誌『一個人』6月号「日本国憲法入門」内企画「日本の憲法法律の歴史」ベストセラーズ
- <内藤家文書 萬覚書 文化9年4月 他>大賀郁夫「近世延岡藩の刑事内済と地域秩序」(『宮崎公立大学人文学部紀要』第19巻第1号) 宮崎公立大学
- <地方測量之図>「映像データベース社会」東京書籍
- <鑑札 株仲間札>藤田覚『日本近世の歴史4 田沼時代』吉川弘文館
- <内藤家文書 江戸幕府老中連署奉書 (寛永16年)9月10日 他>特別展『大名と藩—天下泰平の立役者たち—』図録 埼玉県立歴史と民俗の博物館
- <水戸藩小石川御屋敷御庭之図>月刊誌『ノジュール』5月号 JTBパブリッシング

- <株仲間鑑札 他>NHK高校講座「日本史」(学習教材として地方公共団体や教育機関へ提供)
- <『徳川幕府刑事図譜』「白洲の図」 他>『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き 拡大版』 帝国書院
- <『徳川幕府刑事図譜』「白洲の図」 他>「帝国書院デジタル教科書 社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」 帝国書院
- <高札 太政官札 第3札 キリシタン禁制(慶応4年) 他>文部科学省検定済教科書(高等学校日本史) 山川出版社
- <群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他>2012年度1学期(中1生対象)「ハイジャンプテキスト中1」 他 河合塾
- <相州西郡西筋千津島村吉利支丹改帳 他>『新選日本史B』 東京書籍
- <東京都茂呂遺跡出土ナイフ形石器 他>NHK教育映像インターネット配信
- <新潟県荒屋遺跡出土打製石器>「夏の生活 社会 歴史I(1・2年生用)」 フクト
- <新潟県荒屋遺跡出土打製石器>「夏の生活 社会 3年生用」 フクト
- <千葉県岩名天神前遺跡出土土器・出土人骨 他>『印西歴史読本(原始・古代編)』 印西市教育委員会
- <群馬県岩宿遺跡第1次本調査A地点の発掘調査 他>常設展示図録『岩宿時代』(改訂版) 岩宿博物館
- <京都府深草遺跡出土石包丁>「平成23年度 進研ゼミ中学講座 全国統一実力診断マークテスト」 ベネッセコーポレーション
- <埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他>「2011年度第1回歴史能力検定 3級日本史(公開会場用)試験問題」 歴史能力検定協会
- <新潟県荒屋遺跡出土打製石器>「夏の生活(1・2年生用) 課題テスト 社会(歴史)」 フクト
- <群馬県岩宿遺跡出土刃部磨製石斧 他>「エブリスタディアドバンスト小5」スタンダード6月号他 Z会
- <埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器>福本徹之『歴史評論 新日本原始古代叙事詩序章 大いなる大日本人』 文芸社
- <岩手県雨滝遺跡出土石匙>「2012 センター実戦問題集 日本史B」書店販売問題集(改訂版) 駿台文庫
- <明治大学1号銅鐸>平成23年度夏季特別展解説図録『豊饒をもたらす響き 銅鐸』リーフレット他 大阪府立弥生文化博物館
- <群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他>2011年度夏期講習(高3・高卒生対象)「日本史論述演習」 河合塾
- <神奈川県夏島貝塚出土釣針形骨器>「朝日新聞 夕刊」歴ナビ『物録(モノログ)』⑦ 釣針』朝日新聞大阪本社
- <愛知県平井稲荷山貝塚出土骨角器 他>川添和暁『先史社会考古学 骨角器・石器と遺跡形成からみた縄文時代晩期』 六一書房
- <新潟県荒屋遺跡出土荒屋型彫器 他>『日本歴史大事典』電子辞書版 小学館
- <群馬県岩宿遺跡出土石器>「遠くへ行きたい」読売テレビ
- <千葉県姥山貝塚写真資料>是川縄文館 常設展示
- <千葉県天神前遺跡全景 他>『図説 印旛の歴史』郷土出版社
- <袈裟襷紋銅鐸 3号>平成23年度特別展『銅鐸から銅鏡へ』展示図録 浜松市博物館
- <群馬県岩宿遺跡の発掘>「東京サイト」テレビ朝日
- <東京都茂呂遺跡遠景図>企画展『上板橋』パネル・パンフレット 板橋区立郷土資料館
- <福岡県板付遺跡出土壺形土器 他>「進研ゼミ中学講座中1・中2チャレンジ社会」ベネッセコーポレーション
- <福岡県板付遺跡出土弥生土器>「得点力学習 DS 実技4教科」ベネッセコーポレーション
- <後漢鏡 内行花文鏡 他>横芝光町立図書館町民ギャラリー企画展展示図録他
- <神奈川県夏島貝塚出土骨角製釣針>『中学社会 歴史 未来をひらく』教育出版
- <群馬県武井遺跡出土資料>『概報 武井遺跡群II』武井遺跡群調査団
- <東京都茂呂遺跡発掘調査写真>「広報いたばし」板橋区
- <栃木県篠山貝塚出土縄文土器>「10日間完成 中1・2の総復習 社会」学研教育出版
- <千葉県須和田遺跡>『高校日本史B』実教出版
- <群馬県岩宿遺跡発掘調査風景>『高崎市榛名町誌 通史編上巻 原始古代・中世』榛名町誌刊行委員会
- <福岡県板付遺跡出土弥生土器>平成23年度『進研ゼミ 中学講座 理社ニガテチェック事典』ベネッセコーポレーション
- <神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 他>「ビューポイント 歴史I」塾用問題集 学書
- <青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶>「ビューポイント 歴史II」塾用問題集 学書
- <千葉県江原台遺跡出土山形土偶 他>第一合成文化財部門総合カタログ
- <千葉県江原台遺跡出土山形土偶>「日本美術の1万年～①魂の縄文アート!“土偶”～」NHK・BSプレミアム
- <群馬県岩宿遺跡出土資料>竹田恒泰『日本人はなぜ日本のことを知らないのか』PHP 研究所
- <「日本の人口推移」(図録『掘り出された子どもの歴史』より)>歴史探研DVD「東海の戦国大名今川氏 4人の実像に迫る」ジャパンライム
- <青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶>「教科書対策テスト 歴史I」東書版(塾用問題集) 学書
- <愛知県西志賀遺跡出土資料実測図>『青谷上寺地遺跡フォーラム2011 弥生・骨角器サミット～青谷上寺地遺跡の交流をさぐる～予稿集』鳥取県埋蔵文化財セ

- ンター
- ＜東京都茂呂遺跡発掘調査写真＞「茂呂遺跡発掘調査 60 周年」パンフレット 板橋区教育委員会
- ＜埼玉県砂川遺跡出土石器 他＞『こども歴史新聞』 世界文化社
- ＜佐賀県平沢良遺跡調査風景 他＞九州国立博物館文化交流展示「海の道、アジアの路」パネル・図録 九州国立博物館
- ＜群馬県岩宿遺跡出土石斧 他＞『アドバンス 中学歴史資料』 帝国書院
- ＜群馬県岩宿遺跡出土石器＞『日本のもと』シリーズ 講談社
- ＜岩手県雨滝遺跡出土石匙＞「Y-SAPIX 日曜特訓 SS 第 1 回センター試験／地歴(日本史)」高宮学園
- ＜千葉県江原台遺跡出土山形土偶＞TNM&TOPPAN ミュージアムシアター「DOGU 縄文人が込めたメッセージ」
- ＜広島県帝釈寄倉岩陰遺跡 2 号人骨群写真＞長澤宏昌『散骨は、すべきでない—埋葬の歴史から—』講談社ビジネスパートナーズ
- ＜福岡県板付遺跡出土弥生土器＞「平成 23 年度 出るトコWATCH 理社ポスター」ベネッセコーポレーション
- ＜千葉県天神前遺跡第 1 号墓坑出土土器及び人骨写真＞『図解 八街の歴史』
- ＜福岡県板付遺跡出土弥生土器＞「進研ゼミ中学講座 中 1 定期テスト予想問題集 社会」他 ベネッセコーポレーション
- ＜福岡県板付遺跡出土弥生土器＞「進研ゼミ 難関私立中高一貫講座 中 1 Challenge 開講号」ベネッセコーポレーション
- ＜愛知県五貫森貝塚出土打製石器＞「高校入試模擬テスト 第 6 回」塾用問題集 学書
- ＜福岡県板付遺跡出土弥生土器＞平成 24 年度『進研ゼミ 中学講座 5 教科パーフェクト事典』ベネッセコーポレーション
- ＜群馬県岩宿遺跡出土敲打器＞『地図・年表・図解でみる日本の歴史』小学館
- ＜青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶＞「教科書対策テスト 歴史 I」教出版(塾用問題集) 学書
- ＜青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶＞「教科書対策テスト 歴史 I」日文版(塾用問題集) 学書
- ＜群馬県岩宿遺跡出土石製握槌とブレイド＞「中学歴史 II 必修シリーズ・演習問題・ホームタスク」市進
- ＜千葉県江原台遺跡出土山形土偶＞『Shitara Collection』大室文化資産発掘活用事業実行委員会
- ＜岩手県雨滝遺跡出土石鏃・石匙 他＞『菅野の日本史講義録 改訂版(仮)』高宮学園 代々木ライブラリー
- ＜明治大学記念館前遺跡地下室出土の陶磁器一括 他＞「目からウロコの骨董塾」BS ジャパン
- ＜青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他＞「さなる式テキスト 歴史 I」中学生対象塾用問題集 佐鳴予備校

- ＜埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他＞『歴史の学習 I』浜島書店
- ＜福岡県板付遺跡出土弥生土器＞「進研ゼミ中高一貫講座 難関私立定期テスト予想問題集 社会【中 1 地歴 並行編】」他 ベネッセコーポレーション
- ＜群馬県武井遺跡出土打製石器 他＞『ニューコース歴史』学研教育出版
- ＜福岡県板付遺跡出土弥生土器＞平成 24 年度「進研ゼミ 中学講座 入試によく出る基礎 社会」ベネッセコーポレーション
- ＜明大 4 号銅鐸＞「名古屋市博物館 平成 24 年度年間スケジュール」名古屋市博物館
- ＜福岡県板付遺跡出土壺形土器＞「平成 24 年度 進研ゼミ 中学講座 中 1 チャレンジ 英数国理社 8 月号【歴史 専修／地歴 並行】」ベネッセコーポレーション
- ＜神奈川県夏島貝塚発掘調査写真＞「まなびかんニュース」横須賀生涯学習財団
- ＜群馬県岩宿遺跡出土打製石斧＞「2011 年度小 6 統一合判問題集」首都圏中学模試センター
- ＜愛知県五貫森貝塚出土打製石器 他＞佐鳴予備校「小中@will 社会」デジタル教材 さなる
- ＜神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他＞「新しい社会歴史 教師用指導書」東京書籍
- ＜神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他＞2012 年度「第 1 回全統マーク模試 地理歴史」他 河合塾
- ＜神奈川県夏島貝塚貝層断面 他＞『新横須賀市史』通史編 自然・原始・古代・中世 横須賀市
- ＜千葉県江原台遺跡出土山形土偶＞MIHO MUSEUM 秋季特別展『土偶・コスモス』展覧会図録 羽鳥書店
- ＜栃木県篠山貝塚出土縄文土器＞「ビクトリー 小学社会版」(ネット配信) 学研エデュケーショナル

(5) 図書

①購入・寄贈数 2012 年 3 月 31 日現在

年 度	2008	2009	2010	2011	累計	
購 入	一般図書	167	203	200	123	1,265
	雑誌	131	96	146	134	685
受贈数	4,740	4,214	3,413	3,837	21,858	
遡及数	14,493	14,557	0	0	89,939	
合 計	19,531	19,070	3,759	4,094	112,747	

※数値は、2005 年度に開始したデータベース入力の実数。

※遡及数は、過去に博物館予算で購入もしくは博物館で受贈した図書のうち、図書館へ移管した数字。

V 資料

1 入館データ

(1) 入館状況

①開館日数・時間

ア. 開館期間(休館日)276日(休館日 4月1日～10日、8月10日～16日、12月26日～1月7日)

※東日本大震災の影響により、4月1日～4月10日は臨時閉館

イ. 開館時間 10時～17時

ウ. 月別開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
博物館	20	31	30	31	24	30	31	30	25	24	29	31	336

エ. 月別入館・利用者数 ※常設展示入館者数(4/11～3/31)

博物館	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常設展	1938	4169	4654	4801	5733	3358	5545	6403	4096	2963	3925	4655	52240
特別展	1173	2852	1065	2438	1001	1727	1861	2285	1016	1657	2205	2339	21619
図書室	203	488	644	521	264	345	710	770	650	412	275	249	5531
教室等利用者数	0	0	0	51	57	112	126	148	111	110	151	253	1119
計	3314	7509	6363	7811	7055	5542	8242	9606	5873	5142	6556	7496	80509

②特別展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
漆器 JAPANWARE 文理融合型研究から見えてきた 漆の過去・現在・未来	2011年6月18日～7月31日	44日	3515名
人類史への挑戦—南山大学考古・民族コレクション—	2012年1月20日～3月10日	51日	4214名

③主催展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
新収蔵・収蔵資料展 2011	2011年3月3日～4月17日	19日	1061名

※東日本大震災の影響により、3月12日～3月14日、3月18日～4月10日は臨時閉館

④その他展覧会

名称	期間	開館日数	入館者数
吾妻ひでお美少女実験室	2011年4月23日～5月23日	31日	3572名
民衆の図像展	2011年8月21日～8月28日	8日	989名
RE/MIXED マレーシアと日本におけるサステイナブル建築デザインの地平	2011年9月5日～9月29日	25日	1727名
明治大学の国際交流130年	2011年10月7日～12月18日	73日	5162名
漆サミット2012 展示会	2012年1月12日～1月15日	4日	692名

(2) 団体見学

①月別集計一覧

ア学校団体

学校見学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	2	10	3	6	1	4	9	5	7	3	3	1	54
人数	59	424	122	143	47	91	492	158	167	53	127	5	1888

イ一般団体

一般見学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	5	4	7	3	5	7	3	6	3	12	3	58
人数	0	100	92	209	70	83	156	60	121	31	296	75	1293

②団体一覧

2011年

4月

神奈川県立光陵高等学校 3年生、藤枝順心高等学校 1年生

5月

聖徳学園高等学校 2年生、明治大学法学部 山本聡ゼミ(犯罪学)、京華商業高等学校、国本女子高等学校 第3学年、東京都立成瀬高等学校、もえぎの会、明治大学法学部専門演習受講生、まち歩きガイドクラブ、大妻女子大学、専修大学附属高等学校、埼玉県立上尾高等学校 2年生、私立大学キャンパスシステム研究会第4分科会、茨進ハイスクール

6月

日本大連会、東京都立竹台高等学校、ドラマティック・カンパニー、和洋九段女子高等学校、東京都立南平高等学校 2年生、NEC ユーザー会、さいたま市女性経営者クラブ

7月

警視庁亀有警察署警友会(OB)、大串貝塚塾、東京都立千歳丘高等学校 2年生、さいたま市シニアユニバーシティ 北浦和校史跡めぐりクラブ、ウォーキング DU、川崎市立川崎高等学校 1年生、東京シティガイドクラブ、松商学園高等学校、かながわ考古同好会、明治大学法学部 Law in Japan Program、聖徳大学附属女子中学校 3年生、ウォーク60、獨協大学 新井孝重ゼミ

8月

麻生第一中学校成人教育委員会、ところざわ倶楽部 野老澤の歴史をたのしむ会、千教研市川支会人権教育部会、本庄東高等学校 1・2年生

9月

大宮開成高等学校 2年生、放送大学、杉野服飾大学、マレーシア UTM 大学関係者、脳活き活き教室、福島市立福島第二中学校、群馬歴史散歩の会、旧錦華小学校卒業生クラス会、明治学院中学校

10月

長野県上伊那地区南部保護司会、栃木県立佐野東高等学校 1年生、明治大学法学部 小山廣和ゼミナール、ミキクラブ(松戸・男の料理クラブ)、茨城県立古河第一高等学校 1年生、千葉県立若松高等学校 PTA、文化学院 2年ドキュメンタリー映画コース、総友会、明治大学附属中野中学校第2学年、歴史倶楽部あだち、六大学野球 OB 会、千葉県立成田国際高等学校 PTA、駿台甲府中学校、新潟県上越市立吉川小学校 6年生、高輪高等学校 1年生、市立函館高等学校 2年生

11月

東北芸術工科大学歴史遺産学科(有志)、北海道苫小牧南高等学校、桐朋女子中学校 第3学年、長野県松本美須ヶ丘高等学校 1年生、明治大学校友会、お茶の水女子大学 文教育学部 考古学通論2受講生、調布鮎商組合、神奈川県立川崎工科高等学校公開講座

12月

史跡と自然の会、丸の内はんにや会、いわき地域学会、東京国際学園高等部、千葉聖心高等学校 1・3年生、佐倉土曜あしの会、江東区総合区民センターコミュニティカレッジ、東京都立武蔵高等学校附属中学校 3年生、東京都立桜修館中等教育学校、明星高等学校 1年生、明治大学経営学部 薩摩演習、東京都立城南職業能力開発センター 大田校、福島県立相馬高等学校

2012年

1月

麴町学園女子高等学校、帝京大学法学部法律学科1年13・14組、千葉県立博物館友の会歴史サークル、福井県鯖江市議会 議会運営委員会、みなのか、成城学園高等学校

2月

戸山平成会、NHK 学園市川オープンスクール、北足立郡市町同和対策推進協議会、千代田区立麴町中学校、東村山第五中学校、社団法人 日本セカンドライフ協会、駒門消防団、NHK 学園市川オープンスクール、町田市成瀬台ラジオ体操会、寺子屋品川宿、ぶらっと東京街歩き、君津市上総公民館、水子貝塚市民学芸員、小松原女子高等学校
3年8組、高萩市関係者

3月

障害者の働く場もえぎ、日本学園高等学校、館山市九重地区公民館、朝日カルチャーセンター

(3) 視察・研修受入

①受入団体数・参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	2
人数	—	10	—	—	—	—	—	6	—	—	—	6	22

②団体名一覧

5月 創価大学見学実習

11月 西南学院大学博物館

2012年3月 早稲田大学會津八一記念博物館

(4) 図書閲覧サービス

①図書室

ア 図書開室時間 月～土曜日 10:00～16:30

イ 閲覧者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生													
大学院生	101	340	471	303	129	211	478	517	416	280	121	110	3477
明大教職員	10	16	12	9	2	10	22	5	13	8	12	9	128
友の会	15	16	14	34	18	14	30	15	34	27	22	35	274
リハビリアカデミー会員	2	5	10	10	6	3	9	8	2	7	10	4	76
聴講生	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
OB	12	30	21	19	16	17	22	36	28	18	21	18	258
他大学学生	25	43	71	71	50	61	109	136	123	41	34	30	794
一般	22	21	31	48	26	19	22	29	20	20	38	20	316
明大その他	16	17	13	27	17	10	18	23	14	11	17	22	205
合計	203	488	644	521	264	345	710	770	650	412	275	249	5531
開室日数	18	26	26	26	18	22	25	23	20	19	24	26	273
1日平均 人	11.3	18.8	24.8	20.0	14.7	15.7	28.4	33.5	32.5	21.7	11.5	9.6	20.3

2 組織・構成

(1) 博物館スタッフ

①館長・副館長

任期:2010.4.1~2012.3.31

役職	氏名	所属	専門
館長	杉原重夫	文学部教授	自然地理学
副館長	渡浩一	国際日本学部教授	日本文化史

②専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術・社会連携部長	白井利光		
博物館事務長	坂元昭一		
学芸員	外山徹	商品・刑事部門担当	博物館学／地域文化
学芸員	島田和高	考古部門担当	旧石器文化
学芸員	日比佳代子	刑事部門担当	日本近世史
学芸員	忽那敬三	考古部門担当	弥生・古墳文化

③非常勤職員

	氏名	担当
短期嘱託職員	織田潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	新井ゆかり	庶務(図書)部門担当
短期嘱託職員	小野孝太郎	刑事部門担当
短期嘱託職員	小川祐貴子	商品部門担当
短期嘱託職員	古豊裕次朗	考古部門担当
短期嘱託職員	甲斐由香里	考古部門担当

(2) 博物館協議会

①協議会 任期 2011.4.1~2013.3.31

委員長	矢島國雄	文学部教授
副委員長	浮塚利夫	学術・社会連携部社会連携事務長
	小室輝久	法学部准教授
	高橋昭夫	商学部教授
	吉村武彦	文学部教授
	上杉和彦	文学部教授
	阿部芳郎	文学部教授

	佐々木憲一	文学部教授
	宮腰哲雄	理工学部教授
	新田貞章	農学部教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	古屋野素材	情報コミュニケーション学部教授
	小澤芳明	研究推進部研究知財事務長 →同生田研究知財事務長(9/20~)
	田部井茂	学生支援部学生支援事務長 →教育支援部長(9/20~)
	庄井正志	国際連携部国際連携事務長
	菊池亮一	学術・社会連携部図書館総務事務長
	黒田仁一	経営企画部広報課長

②資料評価分科会 任期 2011.6.21~2013.3.31

座長	上杉和彦	文学部教授
	高橋昭夫	商学部教授
	小室輝久	法学部准教授
	佐々木憲一	文学部教授

(3) 研究調査員 任期 2011.4.1~2012.3.31

福田康典	商学部准教授
上原義子	商学部兼任講師
氣賀澤保規	文学部教授
落合弘樹	文学部教授
山路直充	市川考古博物館 文学部兼任講師
牛米努	税務大学校租税史料室 文学部兼任講師

(4) 各種委員会

①大久保忠和考古学振興基金運営委員会

任期 2011.4.1～2013.3.31 ◎は博物館協議会委員

委員長	杉原重夫	博物館長	
	渡浩一	副館長	
	安蒜政雄	文学部教授・考古学専攻主任	
	石川日出志	文学部教授・考古学専攻教員	
	阿部芳郎	文学部教授・考古学専攻教員	◎
	矢島國雄	文学部教授・学芸員養成課程教員	◎
	吉田優	文学部准教授・学芸員養成課程教員	
	小川直裕	文学部OB	
	熊野正也	文学部OB	
	長野陽次	友の会会長	
	坂元昭一	博物館事務長	
	浮塚利夫	社会連携事務長	◎

(5) 作業部会

①博物館・大学院商学研究科・商学部連携

「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

任期 2006.10～ ◎は博物館協議会委員

座長	高橋昭夫	商学部教授(商品学)	◎
	福田康典	博物館研究調査員・商学部准教授(市場調査論)	
	上原義子	博物館研究調査員・商学部兼任講師	
	外山徹	博物館学芸員	

(6) 明治大学博物館友の会

相談役	杉原重夫	渡浩一	
顧問	大塚初重	倉田公裕	熊野正也
会長	長野陽次		
副会長	野口淳		
理事	蕨俊夫 (総務)	橋本秀夫 (行事)	村井孝行 (会計)
	青鹿良市 (広報)		
運営委員 (総務)	新井正子 →佐藤貞子	平井孝雄	加藤朝子
〃(会計)	関口恵子 →石橋知津子		

〃(行事)	松村祐安	本橋清美	
〃(広報)	佐々木榮一	永井靖	
図書室 管理委員 代表	木戸孝義		
展示解説 員代表	加藤朝子		
監事	斉藤正美	玉木哲彦	
分科会	古文書を読む会		高橋幸子
	平成内藤家文書研究会		粕谷宏幸
	工芸の会		小野禎子
	旧石器・縄文文化研究会		長野陽次
	弥生文化研究会		磯部隆信
	草生水の会		佐々木榮一
	古文書の基礎を学ぶ会		石井吉彦
	東アジアの中の古代日本研究会		松本浩男

(7) 各種会議開催日

①博物館協議会 6/21 2012/3/8

②資料評価分科会 7/19 12/20

③大久保忠和考古学振興基金運営委員会 5/11

④博物館・友の会連絡会議

4/21 7/21 11/17 3/1 合計4回

3 予算・決算

(1) 2011 年度事業費予算・決算

予算

目的 科目	博物館費	基金事業費	政策経費 1 特別展 「漆器」	政策経費 2 大学博物館 交流事業	政策経費 3 前場幸治瓦 コレクション 整理	政策経費 4 内藤家文書 研究・交流	合計
兼務職員人件費	1,503,000	0	0	0	1,190,000	212,000	2,905,000
福利費	20,000	0	0	0	0	0	20,000
修繕費	200,000	0	0	0	0	0	200,000
旅費交通費	1,525,000	10,000	652,000	243,000	89,000	1,572,000	4,081,000
業務委託費	2,050,000	0	5,806,000	4,485,000		320,000	12,661,000
保険料	450,000	0	7,000			0	457,000
準備品	0	0	0			0	
その他の消耗品費	2,784,000	20,000	90,000	5,000	132,000	0	3,011,000
印刷製本費	3,560,000	0	1,527,000	1,132,000		0	6,219,000
郵便費	0	0	0			0	
運搬費	50,000	0	0			0	50,000
支払手数料	510,000	30,000	253,000	120,000	89,000	110,000	1,082,000
賃借料	192,000	0	0	0		0	192,000
会合費	120,000	60,000	0	15,000		0	135,000
公租公課	35,000	0	0	0	0	0	35,000
管) その他の消耗品	50,000	0	0	0	0	0	50,000
図書費	6,400,000	0	0	0	0	0	6,400,000
合計	19,449,000		8,335,000	6,000,000	1,500,000	2,214,000	37,498,000
前年度予算額	19,940,000						30,040,000
増・減(△)	491,000△						7,458,000

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算振替は反映していない

※合計金額は博物館費と政策経費の合計で基金事業費を含んでいない

※基金事業費の内雑費は奨励金額があらかじめ確定しないため計上していない

決算

目的 科目	博物館費	基金事業費	政策経費 1 特別展 「漆器」	政策経費 2 大学博物館 交流事業	政策経費 3 前場幸治瓦 コレクション 整理	政策経費 4 内藤家文書 研究・交流	合計
兼務職員人件費	1,102,408	—	—	—	1,181,630	174,860	2,458,898
福利費	0	—	—	—	—	—	0
修繕費	34,335	—	—	—	—	—	34,335
旅費交通費	1,204,863	—	489,350	220,960	27,460	493,135	2,435,768
業務委託費	3,238,737	—	3,590,858	2,511,069	—	644,684	9,985,348
保険料	250,800	—	—	—	—	—	250,800
準備品	82,950	—	—	—	—	—	82,950
その他の消耗品費	2,023,702	—	7,363	2,840	120,749	—	2,154,654
印刷製本費	2,360,831	800,000	1,443,120	276,150	—	—	4,080,101

郵便費	—	—	—	—	—	—	—
運搬費	66,851	—	—	—	—	—	66,851
広告費	—	—	648,900	446,250	—	—	1,095,150
支払手数料	129,900	—	179,400	132,705	10,000	155,000	607,005
賃借料	29,526	—	—	—	—	—	29,526
会合費	78,432	21,204	93,086	346,112	—	—	517,630
公租公課	30,120	—	—	—	—	—	30,120
雑費	—	5,223,860	—	—	—	—	0
機器備品	3,468,493	—	—	—	—	—	3,468,493
管) その他の消耗品	0	—	—	—	—	—	0
管) 雑費	5,110	—	—	—	—	—	5,110
図書費	2,619,524	—	—	—	—	—	2,619,524
合 計	16,726,582		6,452,077	3,936,086	1,339,839	1,467,679	29,922,263
前年度決算額	14,883,297						23,742,959
増・減 (△)	1,843,285						6,179,304

※予算額を超える執行は年度途中に予算振替の措置を取っている

※合計金額は博物館費と政策経費の合計で基金事業費を含んでいない

※基金事業の奨励金額は「教）雑費」として支出している

(2) 2011 年度収入

その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	559,900
博物館公開・入門講座等受講料	0	0
文献複写・資料代	10,000	860
撮影・掲載料	200,000	1,411,500
スライド販売料	0	0
出品謝礼	0	0
特別展入場料	450,000	256,300
特別講演会資料代	0	0
ミュージアムグッズ売上	10,000	1,035,640
その他	10,000	142,370
合 計	1,280,000	3,406,570
前年度予算・決算額	1,270,000	3,337,752
増・減 (△)	10,000	68,818

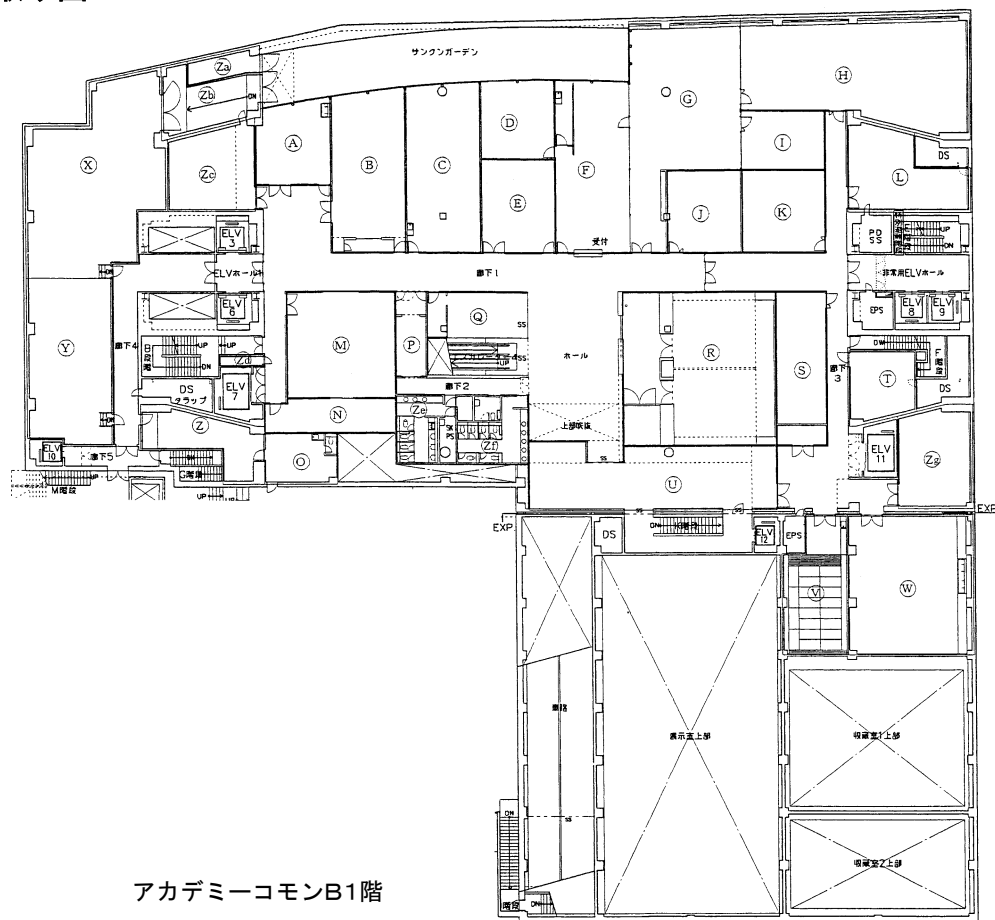
4 施設概要・見取り図

(1) 施設概要

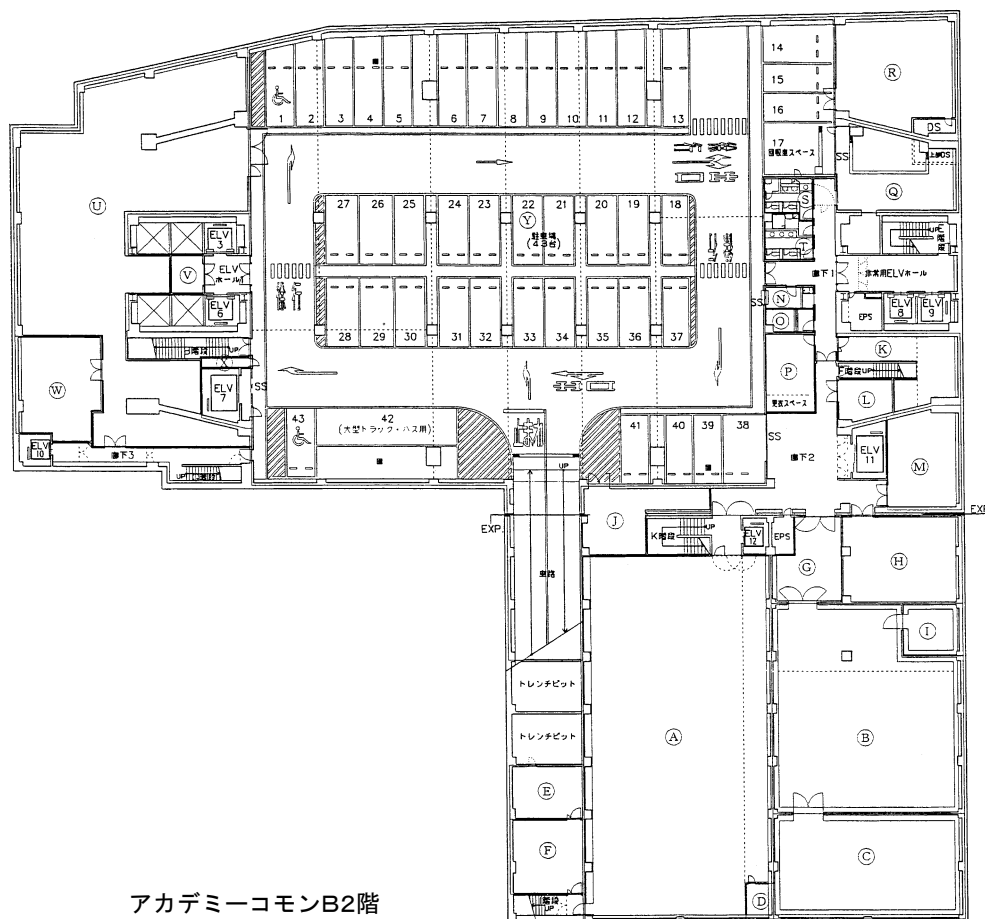
 (単位 m²)

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86 m ²	243.90 m ²
	事務室	B1	F	94.06 m ²	
	会議室	B1	J	45.12 m ²	
	倉庫	B1	L	61.86 m ²	
教育普及部門	図書室	B1	G	145.04 m ²	523.22 m ²
	書庫	B1	H	176.03 m ²	
	閲覧室	B1	I	35.95 m ²	
	博物館教室	B1	B	87.94 m ²	
	体験学習室	B1	A	44.31 m ²	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95 m ²	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19 m ²	785.73 m ²
	大学史展示室	B1	U	115.20 m ²	
	特別展示室	B1	R	173.34 m ²	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03 m ²	332.76 m ²
	作業室 1	B1	V	60.80 m ²	
	作業室 2	B1	W	129.70 m ²	
	展示準備室	B1	K	50.23 m ²	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90 m ²	649.11 m ²
	一時保管室	B2	H	77.35 m ²	
	収蔵室 1	B2	B	271.46 m ²	
	収蔵室 2	B2	C	147.37 m ²	
	特別収蔵室	B2	I	23.28 m ²	
	写真保管室 1	B1	S	56.68 m ²	
	写真保管室 2	B1	T	34.07 m ²	
合 計					2,534.72 m ²

(2) 施設見取り図



アカデミーコモンB1階



アカデミーコモンB2階

5 規程

明治大学博物館規程

1991 年 10 月 31 日制定
1991 年規程第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、明治大学学則第 64 条第 2 項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友並びに一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

第 3 条 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (7) 生涯教育の振興及び学習支援
- (8) 分館の設置及び運営
- (9) その他必要と認められる事業

(館長)

第 4 条 博物館に、館長 1 名を置く。

- 2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。
- 3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により本大学が任命する。
- 4 館長の任期は、2 年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 館長は、再任されることができる。
- 6 館長は、学部、大学院、付属学校又は付属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

第 5 条 博物館に、副館長 1 名を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、本大学が任命する。
- 4 副館長の任期は、2 年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

第 6 条 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

- 2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職 1 名並びに学芸員及び職員若干名を置く。
- 3 学芸員は、第 3 条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

第 6 条の 2 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

- 2 研究調査員は、本大学の教職員並びに学外の有識者及び若手研究者の中から、館長が次条に規定する明治大学博物館協議会の同意を得て委嘱する。
- 3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館協議会)

第 7 条 博物館の運営に関する事項について検討し、及び協議し、並びに館長の諮問に応じるため、博物館に明治大学博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

- 2 協議会は、本大学の専任教職員の中から、館長の意見を聴いて学長が委嘱する委員若干名をもって組織する。
- 3 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。
- 5 協議会に、委員長及び副委員長各 1 名を置く。
- 6 委員長及び副委員長は、委員の互選により、これを定める。
- 7 委員長は、協議会を招集し、その議長となる。
- 8 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 9 協議会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
- 10 協議会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。
- 11 分科会に関し必要な事項は、委員長が協議会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

第 8 条 この規程を改廃するときは、協議会の議を経なければならない。

(雑則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、館長が協議会に諮り、学長の承認を得て別に定める。

附 則 (1991 年規程第 2 号)

(施行期日)

- 1 この規程は、1991 年（平成 3 年）10 月 31 日から施行する。
(明治大学刑事博物館規程等の廃止)
- 2 次に掲げる規程は、廃止する。
 - (1) 明治大学刑事博物館規程（昭和 56 年規程第 72 号）
 - (2) 明治大学商品陳列館規程（昭和 56 年規程第 73 号）
 - (3) 明治大学考古学博物館規程（昭和 56 年規程第 74 号）

(通達第 669 号)

附 則 (1996 年度規程第 16 号)

この規程は、1997 年 (平成 9 年) 4 月 1 日から施行する。

(通達第 893 号) (注 博物館協議会の設置に伴う改正)

附 則 (2001 年度規程第 14 号)

この規程は、2002 年 (平成 14 年) 4 月 1 日から施行する。

(通達第 1143 号) (注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正)

附 則 (2003 年度規程第 8 号)

(施行期日)

- 1 この規程は、2004 年 (平成 16 年) 4 月 1 日から施行する。

(改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例)

- 2 改正前の明治大学博物館規程第 6 条第 1 項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第 8 条第 1 項の規定にかかわらず、2004 年 (平成 16 年) 3 月 31 日をもって満了するものとする。

(通達第 1232 号) (注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正)

附 則 (2006 年度規程第 13 号)

この規程は、2006 年 (平成 18 年) 11 月 16 日から施行する。

(通達第 1490 号) (注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正)

附 則 (2007 年度規程第 21 号)

この規程は、2007 年 (平成 19 年) 9 月 10 日から施行する。

(通達第 1562 号) (注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2008 年度規程第 4 号)

この規程は、2008 年 (平成 20 年) 5 月 20 日から施行する。

(通達第 1689 号) (注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正)

附 則 (2009 年度規程第 7 号)

この規程は、2009 年 (平成 21 年) 6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

(通達第 1807 号) (注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994 年 9 月 26 日制定

1994 年度例規第 7 号

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、明治大学博物館規程 (1991 年規程第 2 号) 第 9 条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品 (以下「資料等」という。) の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真、映画、テレビジョン若しくはビデオテープレコーダーによる撮影、模写又は複製を行うことをいう。
- (2) 影印 資料等を、写真印刷により復刻することをいう。
- (3) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

(申請)

第 3 条 資料等の撮影及び掲載 (以下「撮影・掲載」という。) を希望する者 (以下「申請者」という。) は、所定の資料撮影・掲載申請書 (以下「申請書」という。) を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長 (以下「館長」という。) に提出し、許可を受けなければならない。

(許可)

第 4 条 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
- (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
- (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
- (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
- (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

(撮影・掲載を許可しない場合)

第 5 条 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載 (第 5 号に該当する場合にあっては、第 8 条に規定する掲載を除く。) を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合

(5) 撮影をすることなく、資料等の写真原版若しくは複製物、博物館所蔵の映画フィルム若しくはビデオテープ又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができる」と明らかに認められる場合

(6) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

(料金)

第6条 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。

2 料金は、資料等を1点当たりの金額とする。

3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。

(料金の免除)

第7条 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

(1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業(次号において「教育等事業」という。)の用途に供することを目的とするとき。

(2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。

(3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。

(4) 博物館法(昭和26年法律第285号)に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。

(5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。

(6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。

(7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

(準用規定)

第8条 資料等の熟覧及び写真原版、ビデオテープ又は複製物の利用による掲載(以下「貸出掲載」という。)については、第3条から前条までの規定を準用する。

2 前項の場合において、第6条第1項中「別表第1に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第2に定める料金を、貸出掲載にあつては別表第3に定める料金を」と読み替えるものとする。

(その他の諸経費)

第9条 この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

第10条 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

第11条 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

(許可の取消し等)

第12条 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

第13条 この要綱に定めのない事項については、館長が博物館協議会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

附則(1994年度例規第7号)

この要綱は、1994年(平成6年)9月27日から施行する。

附則(1997年度例規第7号)

この要綱は、1997年(平成9年)12月16日から施行し、改正後の第1条及び第13条の規定は、同年4月1日から適用する。

(通達第922号)(注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正)

附則(2004年度例規第7号)

この要綱は、2004年(平成16年)10月1日から施行する。(通達第1312号)(注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正)

附則(2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。

(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附則(2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

別表第1（第6条関係） 撮影・掲載料金

1 一般

写真 映画 テレビジョン ビデオテープ レコーダー 模写	10,000
複製	20,000

(単位：円)

2 影印

影 印	頒布価格×(該当ページ数÷総ページ数)×0.05×出版部数の算式により算出された額。ただし、料金の最低限度額を10,000円とする。
-----	--

(単位：円)

別表第2（第8条関係） 熟覧料金

熟 覧	5,000
-----	-------

(単位：円)

別表第3（第8条関係） 貸出掲載料金

1 フィルム

サイズ	4×5	6×8 6×6	35mm
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

(単位：円)

2 紙焼

サイズ	キャビネ以上	キャビネ未満
カラー	2,000	1,000
モノクローム	2,000	1,000

(単位：円)

3 ビデオテープ

ビデオテープ	10,000
--------	--------

(単位：円)

明治大学博物館特別展示室の利用に関する取扱要綱2005年10月4日制定
2005年度例規第7号

(趣旨)

第1条 この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程(昭和46年規程第38号)第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館(以下「博物館」という。)内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ(以下「特別展示室」という。)の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

第2条 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

(利用範囲)

第3条 特別展示室は、博物館が実施する特別展等(以下「特別展等」という。)に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動

(利用日及び利用時間)

第4条 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

- 2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。
- 3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。

(利用申込み)

第5条 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

第6条 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
- (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
- (3) その他利用が不相当と認められる場合

2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

第7条 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不相当と管理責任者が認められたとき。

2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

第9条 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

第10条 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。
- 3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。
- 4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。
- 5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。

(権利の譲渡及び転貸の禁止)

第11条 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

第12条 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

- 2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。
- 3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

第13条 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務局が行う。

(要綱の改廃)

第14条 この要綱を改廃するときは、博物館協議会の議を経なければならない。

附 則 (2005年度例規第8号)

この要綱は、2005年(平成17年)10月5日から施行する。(通達第1397号)

附 則 (2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。

(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

1995年5月8日制定
1995年度規程第2号

(設定)

第1条 明治大学(以下「本大学」という。)に、本大学文学部史学地理学科(考古学専攻)の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金5,000万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振興基金(以下「基金」という。)を設定する。

(目的)

第2条 基金は、考古学及び明治大学博物館(以下「博物館」という。)にかかわる調査・研究(以下単に「調査・研究」という。)を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。

(資産)

第3条 基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。

- (1) 第1条の指定寄付金
- (2) 基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金
- (3) 第7条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産

(基金の運用等)

第4条 基金の資産は、資金の運用に関する規則(2009年度規則第20号)に基づいて運用する。

- 2 前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。
- 3 基金は、第6条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることのできるものとする。

(事業)

第5条 基金による事業は、次のとおりとする。

- (1) 調査・研究に対する助成
- (2) 調査・研究によって得られた成果に対する顕彰
- (3) 前2号のほか、第2条の目的達成に必要な事業
- 2 前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。(基金運営委員会)

第6条 基金の運用等及び前条第1項の事業に関する事項を審議するため、基金運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
- (1) 明治大学博物館長 1名
 - (2) 文学部史学地理学科考古学専攻主任（次号において「主任」という。）1名
 - (3) 文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうちから主任が推薦する者 若干名
 - (4) 学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長 2名
 - (5) 考古学に関し高度の学識経験を有する者 若干名
- 3 前項第3号及び第5号の委員は、委員長が委嘱する。
- 4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 第2項第3号及び第5号の委員は、再任されることができる。
- 6 運営委員会に、委員長を置き、第2項第1号の委員をもって充てる。
- 7 委員長に事故あるときは、第2項第2号の委員が、その職務を代行する。
- 8 委員長は、会務を総理する。
- 9 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 10 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
- 11 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 12 運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。
- （収支残額の処理）

第7条 毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。

（事務）

第8条 基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

（規程の改廃）

第9条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

（雑則）

第10条 この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。

附則（1995年度規程第2号）

（施行期日）

- 1 この規程は、1995年（平成7年）5月9日から施行する。
 - （委員の任期の特例）
 - 2 この規程の施行後、最初に任命される第6条第2項第3号及び第5号の委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、1997年（平成9年）3月31日までとする。
- （通達第806号）

附則（2003年度規程第35号）

この規程は、2004年（平成16年）4月1日から施行する。

（通達第1282号）（注 考古学博物館が明治大学博物館として統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更に伴う改正）

附則（2007年度規程第40号）

この規程は、2007年（平成19年）11月8日から施行する。

（通達第1604号）（注 事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正）

附則（2009年度規程第7号）

この規程は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1807号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附則（2010年度規程第6号）

この規程は、2010年（平成22年）5月26日から施行し、改正後の規定は、同年3月30日から適用する。

（通達第1911号）（注 資金の運用に関する規則の制定に伴う改正）

明治大学博物館友の会会則

1988年6月25日制定

1993年4月1日改訂

2006年4月1日改訂

2010年4月1日改訂

（名称）

第1条 本会は、明治大学博物館友の会という。

（事務所）

第2条 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台1-1明治大学博物館（以下「博物館」という。）内に置く。

（目的）

第3条 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 講演会・研修会・見学会などの開催
2. 会報、ニュース、図書の発行
3. 会員による自主研究分科会活動
4. 博物館事業への協力活動
5. その他目的達成に必要と認められた事業

（入会）

第5条 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

（会員の特典）

第6条 会員には、次の特典がある。

1. 本会および博物館の行事などの情報提供
2. 明治大学並びに博物館主催行事への優待参加
3. 明治大学図書館の閲覧
4. 関係図書・資料等の割引購入

（退会）

第7条 会員の資格は、次の場合に消滅する。

1. 退会の申し出があった場合
2. 死亡した場合
3. 会費の有効期限が過ぎた場合
4. 本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合
(役員)

第8条 本会に、次の役員を置く。

会 長	1名
副 会 長	2名
理 事	5名以内
運営委員	若干名
監 事	2名以内

(役員を選出)

第9条 役員は、次のとおり選出するものとする。

1. 会長および監事は、総会で選出する。
2. 副会長および理事は、会長が任命する。
3. 総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は、理事会において選任し、会長が任命する。
4. 上記2. 3について、会報で報告する。
5. 監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

(役員職務)

第10条 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

1. 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ない時は、その職務を代行する。
3. 理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。
4. 運営委員は、理事と共に会務を行う。
5. 監事は、会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べる事が出来る。

(役員任期)

第11条 役員任期は、2年とする。

1. 役員再任を、妨げない。
2. 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

(相談役・顧問)

第12条 本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。

1. 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
2. 相談役および顧問は、会長の諮問に応じる。

(総会)

第13条 本会は、年1回総会を開き、当該年度の事業報告・会計報告並びに次年度の事業計画・予算案の承認を出席会員の過半数により議決する。

なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、臨時総会を開催しなければならない。

(理事会)

第14条 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、必要に応じて会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

1. 総会に付議する重要な事項。
 2. その他、本会の運営に関する重要な事項。
- なお、理事の過半数の要求があった場合、理事会を開催しなければならない。

(運営委員会)

第15条 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、必要に応じて会長が招集し、本会の業務運営を行う。

また、必要に応じて分科会代表者などを含めた拡大運営委員会を開催する。

なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、運営委員会を開催しなければならない。

(会費)

第16条 本会の会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半年入会者は、賛助会員を除き半額とする。

1. 一般会員	3,000円
2. 家族会員	1,500円(同居の家族)
3. 学生(明治大学学生)	1,500円
4. 賛助会員(1口)	10,000円

(会計)

第17条 本会の会計は、次のとおりとする。

本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

(会則の変更)

第19条 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

(付則)

1. 本会則は、改訂年4月1日から発効する。
2. 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

6 2012年度教育・研究に関する計画書

教育・研究に関する長期・中期計画書 博物館

1 理念・目的

2004年4月に、刑事・考古学・商品の旧三博物館が統合され、明治大学博物館が開館して2010年度で7年が経過した。その間、主軸事業である博物館主催特別展の開催は都合7回を数え、学内外の諸団体の主催ないしは他館との共催展覧会は、都合33回開催されている。2010年度末現在、2004年度以降の総利用者数は411,113人に達した(図書室利用者を含む)。これらの数字に示されるように、博物館は、旧三博物館時代に培われた「市民に開かれた大学博物館」の理念のもとに、大学が果たすべき社会貢献の一翼を担ってきたと評価できよう。また、南山大学人類学博物館と交流事業協定を結び、2010年度からシンポジウムの開催、合同展示会の開催などを展開している。

開館以降これまでに構築された生涯学習を中心とする博物館事業を発展的に継続することに加えて、「明大方式」とも呼ぶうる大学博物館としての特色をどのように打ち出すことが出来るのか。博物館は、以下の項目を長期・中期計画における取り組みの柱とし、主要な点検・評価の対象としていきたい。

- (1) 博物館における研究機能の拡充
- (2) 博物館における社会連携機能の拡充
- (3) 博物館における共同利用機能の拡充

以下の記載は、2009年度から2013年度までの5カ年を視野に、博物館が重点的に取り組もうとする、主要な計画や課題および進捗状況である。

2 教育研究組織

(1) 特定課題研究ユニット等との参画・連携

中長期的な観点からは、研究・知財戦略機構における特定課題研究ユニット・付属研究施設等へ博物館が参画・連携することをとおして、「研究機能の拡充」に資する教育研究に係わる組織の土台とする。その際は、博物館の収蔵資料に関わる専門領域を核に、学部・大学院と連携を図り、共同研究体制の構築に努める。例えば、黒曜石研究センターの大型研究に博物館学芸員が研究分担者として参画しているが、より一層の機関相互の提携と事業の共同実施などに資する方策を検討したい。

(2) 文学部文化財研究装置と黒曜石研究センターの位置づけ

博物館分館であった黒曜石研究センターの学内位置づけと文学部文化財分析装置の博物館への移管については、中期的な課題としてあげていたが、2010年4月に黒曜石研究センターは、研究・知財戦略機構の付属研究施設として位置づけられた。センターは2011年度の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、研究活動を開始している。これにともない、文学部文化財研究装置についても、2012年4月

に黒曜石研究センター(研究・知財戦略機構)に移管される予定であり、これにより両施設・装置の位置づけと研究組織の構築については、一定の解決をみた。

3 教育内容・方法・成果

博物館主催特別展は、今後も市民や関連学界等から高い評価を得られるよう独創的で、質の高い内容を維持する。また、継続して生涯学習事業を幅広く推進する。なお、学芸員資格(国家資格)取得を目指す博物館実習生や職場体験を希望する学生・生徒を受け入れ、学芸員の養成や広い意味での人材育成を支援する。

(1) 博物館主催特別展

当該事業は、年1~2回を基本とし、博物館事業の主軸事業と位置づけられており、担当学芸員一人当たりの年間エフォートの相当な部分が傾注されている。2004年度からの実施により、入館者数の増加ならびにリピーターの確保については、一定の成果をあげたと判断される。特別展を担当する学芸員は、引き続きそれぞれの調査・研究の成果をもとに、特別展のグランド・デザインを企画し、実行委員会等多方面からの意見をふまえ、特別展の準備と運営を担う。なお、2012年度は黒曜石研究センターほかと共同企画を予定している博物館主催特別展「列島氷河時代の北・南一ヒトー資源環境系のダイナミズムー」(仮称)を開催する予定。

(2) 学内外の機関等と共同で開催する展覧会

特別展示室の利用は、博物館における「共同利用機能の拡充」の主要な役割を担う。これまで、個別の特別展示室の利用依頼にもとづき、学内外機関の展覧会を開催してきたが、特に学内団体による利用機会をより幅広く提供するために、特別展示室の利用の周知を図る。

(3) 教育普及プログラム

博物館の特性を活かし、学部・大学院との連携による公開特別講義、学部間共通総合講座をはじめ、博物館公開講座・入門講座等、学芸員の専門的知識・技能を発揮できる生涯教育プログラム、また研究発表会等を実施する。加えて、学外の教育・研究機関が主催する市民講座等へも積極的に出講し、本学と博物館の研究成果を社会に還元し、地域連携の推進に努める。

4 社会連携・社会貢献

博物館事業の全般は、必然的に社会連携ないしは社会貢献への指向を内包している。しかし特に、「社会連携機能の拡充」の観点からは、次のような事業を中長期的に計画している。また、博物館友の会は、博物館と市民との重要な接点の一つとして機能しており、その活動の支援は博物館の責務である。

(1) 地域連携・大学連携事業の推進

ア 博物館は、本学と社会連携事業推進協定を締結している長野県長和町をはじめ、長野県教育委員会、長野県埋蔵文

化財センター、長野県立歴史館、長野県考古学会、黒曜石研究センターほか関連市町村と連携し、市民と研究者を対象とした「信州黒曜石研究フォーラム」を開催することにより黒曜石原産地と石器時代遺跡の保存・活用に関する行政的コンセンサス形成を支援する。

イ 考古学・文化人類学の分野で高い評価を得ている南山大学人類学博物館と交流協定を結び、大学博物館交流事業を立ち上げた（2010 年度～2012 年度）。2012 年度までを当面の事業期間とし、相互の収蔵資料の交換展覧会の開催や、大学博物館、地域博物館をテーマとした合同シンポジウムを開催・企画している。

ウ これまでに地域連携の実績がある宮崎県延岡市、長和町、千代田区に加え、特別展や調査・研究をとおして信頼関係を構築している山形県天童市他との間で、セミナー開講等によりあらたな地域連携を推進する。また、宮崎県延岡市とは、政策的計画「内藤家文書研究の推進および旧領延岡市との交流事業」による地域大学間交流事業（2011 年度～2013 年度）を実施している。

(2) 博物館友の会活動の支援

旧考古学博物館友の会として出発した博物館友の会は、おもに一般市民による会員 400 名弱からなり、2013 年に結成 25 周年を迎える。その結成は、学内的には「生涯教育」「社会貢献」の先駆的試みであったと評価される。友の会活動は、会員による自律的な運営体制をとっているが、これまでに博物館の対外的な評価の形成に果たした貢献は大きい。今後も、展覧会、資料整理等におけるボランティア活動を提案・促進するとともに、友の会活動への学芸員の参加機会を増やし、友の会活動を学内外に広くアピールする。

5 教育研究等環境

(1) 研究環境

ア 博物館事業に関連する調査・研究

特別展の準備には、テーマに関連した数年にわたる調査・研究が必要である。より短期的には、各種の生涯学習講座に資する調査・研究も必要である。学芸員は、必要に応じて、これらの調査・研究を科学研究費補助金等の外部資金で行うことが望ましい。学芸員が学内から科研費を申請する際には、学部兼任講師であることと、学内大型研究プロジェクトに参画していることの二つを条件として研究者番号の行使が認められている。しかしこれは煩雑であり、改善を求めたい。学芸員による競争的研究資金獲得の機会を増やし、博物館の研究環境の強化につなげる。

イ 博物館資料に関連する調査・研究

現在進行中の「譜代大名内藤家文書近代史料」「萩原龍夫旧蔵資料」「伝統的工芸品の産地」「時田ことわざコレクション」「玉里舟塚古墳出土資料」「前場幸治寄贈資料」に関する調査・研究は、特定課題研究ユニットや各種学内研究プロジェクトと共同で行われている。収蔵資料に対する調査・研究は博物館機能の根幹であることから、中長期的視野で継続し、順次成果を公開する。また、政策的計画「内藤家文書研究の推進および旧領延岡市との交流事業」の主

軸事業として収蔵史料・内藤家文書研究（2011 年度～2015 年度）を推進する。

ウ 共同研究と学習機会の提供

「共同利用機能の拡充」では、院生・学部生への学習機会の提供も主眼となる。「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト、譜代大名内藤家文書近代史料整理プロジェクト、萩原龍夫旧蔵資料整理プロジェクトは、教員と学芸員の主導のもとに、院生・学生との共同で推進している。

(2) 施設・設備等

ア 常設展示の見直しと改修

博物館リニューアル 10 周年（2014 年度）をめぐり、常設展示内容について学術情報の点検とアップデートを行い、必要な展示造作の改修を計画する。

イ 収蔵・展示環境の維持

資料の保存環境と展示環境の改善と維持は、重要文化財を含む資料を保管する博物館の重要な責務である。収蔵庫の防虫処理、特別展示室の化学的な環境測定と汚染物質除去を定期的に行っているが、博物館施設で独自に空調管理が出来ないこと等から、温湿度の変化が激しく、保存・展示環境への影響が大きい。空調管理については、必要な改修を要望していきたい。

ウ 収蔵庫の増設

2004 年度以降、既存の収蔵資料に加えて、博物館の知名度の高まりとともに寄贈資料の申し入れが予想以上に増加したことにより、アカデミーコモン地下 1、2 階にある収蔵庫の収容能力が限界に近づきつつある。今後の体系的な資料収集と整備に資するべく、現在の収蔵庫と同規模程度（写真保管庫を含め約 1000 m²）の収蔵施設の増設を要望したい。また、資史料の多様化に対応する専門学芸員の増員についても検討する。

(3) 博物館資料及び図書・電子媒体等

博物館資料（文化財・記録情報・画像情報）は「研究機能の拡充」「社会連携機能の拡充」「共同利用機能の拡充」に関連する全ての活動の基盤となる大学の知的資源であるとともに、国民共有の財産でもある。

ア 博物館資料の構築

刑事・考古・商品の三部門の性格に応じ、特色ある博物館資料の構築を恒常的に行っている。資料の購入にあたっては、博物館協議会の分科会である資料評価分科会の審議を要する。刑事部門では、刑罰史関連資料、古文書、絵図・古地図類の関連資料、考古部門では、黒曜石研究、東アジア青銅器、化石人類の関連資料、商品部門では、伝統的工芸品関連資料を収集の基本方針とする。また、寄贈資料の受入れも積極的に推進する。

イ 博物館資料の活用

各部門の博物館資料は、分野に応じた整理と調査・研究を経て、展覧会・講座・研究報告等により社会還元される。博物館資料の活用の前提には、各種資料の保存処置・修復を行う必要があるため、継続して予算措置していく。

ウ 博物館資料のレファレンス体制

刑事部門では、2004年度以降、譜代大名内藤家文書等の閲覧用マイクロフィルム・紙焼き等の作成や『明治大学所蔵内藤家文書目録』平成バージョンの再刊をとおして、学内外からの資料調査・レファレンスに迅速に対応できる体制を整えた。

エ 個性的な蔵書構築

博物館三部門に関連する専門図書については今後も計画的に蔵書構築を行っていく。約6万冊の図書は、図書館の書誌情報に統合されており、今後も利用者の利便に資するため、レファレンス環境の整備および蔵書点検を図書館と連携して推進する。全国各地の発掘調査機関から博物館と考古学専攻に寄贈される遺跡発掘調査報告書は、年間2000冊に達し、全国各地の博物館・美術館が刊行した展覧会図録、収蔵資料に関連する参考文献は博物館図書を特色づけている。今後も利用者の拡大を図る。

事業内容・規程類・各種委員会・出版掲載利用・施設・入館者動向等については、『博物館年報』の年次刊行により公開している。同年報については、今後電子媒体による公開を検討する。広報紙「ミュージアム・アイズ」（年2回発行）やミュージアム・ショップ並びに博物館、学会等とのネットワークを活用し事業の広報に務める。またホームページの更新とタイムリーな情報提供に努める。

6 管理運営・財務

(1) 事務組織

博物館事業を司る学芸員については、関係学問分野における専門的知識と技能を要する専門職として制度的に位置付けられるよう、引き続き学内の理解を求めていきたい。また、事務機構改革の実施により、一般事務職員の配置がなくなり、見直し後においてもそのままになっている。より発展的な博物館の運営に資する適切な事務組織を構築するため、関係部署と協議していきたい。

(2) 財務

引き続き日本私立学校振興・共済事業団への私立大学等經常費補助金(地域活性化貢献支援メニュー／3総合的な地域活性化事業支援／大学等施設の開放)申請をおこなう。また、研究プロジェクトの推進その他において外部資金の獲得に努める。相当規模の予算をとまなう事業については、政策経費として計上することによって適否を検証するとともに、經常経費は教育研究計画に基づき適正な配分に努める。

7 内部質保証

(1) 自己点検・評価

教員や事務管理職によって構成される博物館協議会による事業評価をおこない、全学的な教育・研究ニーズを反映する。各種博物館事業は対外的には本学を代表する側面をもつので、教職員から幅広く事業に対する意見を聴取し、点検・評価・改善する方法を制度化したい。また、各種アンケート調査をとおして、積極的に利用者の意見を聴取し、博物館運営と事業の改善に資する。

(2) 情報公開

ア 博物館資料等に関する学術情報の公開

三部門共通の紀要である『博物館研究報告』は、投稿規程と査読制度を整備し、年次刊行している。また、各種資料整理の成果を図録、目録、報告書等として刊行する。

イ 事業報告と広報

2012 年度:政策的計画の経費等一覧				部署:博物館事務室			
順位	計画課題(名称)	計画の成果・効果	必要経費(単位:万円)				
			今後 3年間 総額				以降 経常化
				12年度	13年度	14年度	
1	2012 年度博物館 主催特別展	博物館主催特別展は、2004 年度以降博物館の主軸事業となっており、多くのリピーターを確保し学界においても評価を得ている。2012 年度特別展は「列島氷河時代の北・南:ヒト-資源環境系のダイナミズム」(仮題)とし、博物館が研究を支援している黒耀石研究センターと共同で企画する。本学の特色ある研究成果のアピールと社会還元に貢献できる。	1000	1000			
2	前場幸治コレク ションの体系化	2009 年度に寄贈された全国屈指の瓦コレクションを整理・精査してリスト化と資料化(写真撮影・計測・拓本等)を行い教育・研究への利活用が可能な体制を整える。整理作業は学外研究者と本学学生が従事するほか、研究者による調査と評価を行い、教育研究に寄与する。2013 年度に特別展の開催を予定。本事業は、古代学研究所との共同事業である。	450	175	275		
3	明治大学博物 館・南山大学人類 学博物館交流事 業	2010 年度~2012 年度で実施している南山大学人類学博物館との交流協定事業の最終年度は、名古屋市博物館を会場として同博物館と明治大学、南山大学の三者主催特別展を開催する。国重要文化財を含む博物館の主要なコレクションを一堂に展示し、明治大学とその研究成果を中京圏でアピールする。また、3 回行った合同シンポジウムの成果報告書を刊行する。	600	600			2013 年度以降は、経常化を要求。
4	内藤家文書研究 の促進及び旧領 延岡市との交流 事業	内藤家文書のさらなる研究促進と研究環境の整備・充実を目指し、関連史料の調査と重要史料の史料翻刻を行う。また、出前授業や講演会などのアウトリーチ活動と延岡市の小中高生の大学訪問を実施する。これにより、館蔵史料の研究への有効活用、研究成果の社会還元が図られ、明治大学の活発な研究活動の様子を社会にアピールする事ができる。	550	225	255	100	

7 博物館のあゆみ

1881 (明治14)年	1月	明治法律学校開校
1929 (昭和4)年	4月	刑事博物館・記念館5階に開設
1933 (昭和8)年	4月	刑事博物館・初代館長に大谷美隆法学部教授就任
1951 (昭和26)年	4月	刑事博物館・館長に島田正郎法学部教授就任 商品陳列館・2号館に商学部商品研究所付属資料室として開設 初代館長に林久吉商学部教授就任
1952 (昭和27)年		考古学陳列館・2号館4階に開設 初代館長に後藤守一文学部教授就任
1954 (昭和29)年	4月	刑事博物館・2号館4階へ移転、6月に一般公開開始
1955 (昭和30)年	2月	刑事博物館・博物館相当施設に指定 (2004年3月指定解除)
1960 (昭和35)年		考古学陳列館・館長杉原莊介文学部教授就任
1966 (昭和41)年	4月	小川町校舎に移転(刑事博物館・3階 考古学陳列館・2階 商品陳列館・4階) 商品陳列館・館長に三谷茂商学部教授就任
1976 (昭和51)年	4月	刑事博物館・館長に鍋田一法学部教授就任
1977 (昭和52)年		商品陳列館・一般公開再開、「講演と映画の会」開催
1981 (昭和56)年	4月	1号館(刑事博物館・1階 考古学陳列館・3階)、11号館(商品陳列館・4階)へ 仮移転 商品陳列館・館長に刀根武晴商学部教授就任
1983 (昭和58)年	9月	考古学陳列館・館長大塚初重文学部教授就任
1985 (昭和60)年	11月	考古学博物館に名称変更 大学会館へ移転(刑事博物館・商品陳列館3階 考古学博物館4階)
1988 (昭和63)年	6月	明治大学考古学博物館友の会結成(2004年～明治大学博物館友の会)
1991 (平成3)年	4月	3博物館事務所管部署一元化のため博物館事務室設置
1992 (平成4)年	10月	「明治大学博物館規程」制定
1995 (平成7)年	4月	考古学博物館・館長に戸沢充則文学部教授就任
	4月	刑事博物館・館長に川端博法学部教授就任 「博物館入門講座」開始
1996 (平成8)年	4月	考古学博物館・館長に小林三郎文学部教授就任
1997 (平成9)年	4月	博物館協議会発足
1998 (平成10)年	11月	学長より、明治大学博物館規程に基づき「学芸員」委嘱発令
2001 (平成13)年	2月	刑事博物館70周年記念特別展示「新・捕りもの伝説」開催
	4月	刑事博物館・文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
2002 (平成14)年	4月	商品陳列館・商品博物館へ名称変更、館長に沢内隆志商学部教授就任
2004 (平成16)年	3月	新博物館オープニングセレモニー
	4月	「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館 「明治大学博物館規程」一部改正施行(刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合) 博物館長に小疇尚文学部教授就任 開館記念特別展「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」(4/1～5/31)
	6月	副館長に渡浩一政治経済学部教授就任
	10月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託(10/1～3/31)
2005 (平成17)年	4月	博物館長に杉原重夫文学部教授就任
	10月	特別展「江戸時代の大名一日向国延岡藩内藤家文書の世界」(10/15～12/11)
2006 (平成18)年	8月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託(8/1～3/31)
	10月	特別展「掘り出された<子ども>の歴史—石器時代から江戸時代まで—」(10/7～12/10)
2007 (平成19)年	4月	明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる
	5月	新博物館入館者15万人 特別展「ガウランド—日本考古学の父」(5/19～7/1)
	9月	特別展「明治大学所蔵村絵図の世界—故郷の原風景を歩く」(9/14～10/23・10/26～12/4)
2008 (平成20)年	5月	特別展「クール・ジャパンを科学する—世界が注目する日本文化」(5/7～7/1)
	10月	特別展「氷河時代の山をひらき、海をわたる—日本列島人類文化のバイオニア期」(10/10～12/12)
	12月	新博物館入館者25万人
2009 (平成21)年	4月	特別展「東アジア・海のシルクロードと“福建”—陶磁器 茶文化 東西交易 水中考古—」(4/13～5/18)
	9月	新博物館入館者30万人
	10月	特別展「大名と領地—お殿様のお引越—」(10/17～12/20)
2010 (平成22)年	3月	南山大学人類学博物館と交流協定締結
	4月	分館黒耀石研究センターを明治大学研究・知財戦略機構へ移管
	10月	特別展「王の埴輪—玉里舟塚古墳の埴輪群—」(10/9～12/12)
	12月	新博物館入館者40万人
2011 (平成23)年	6月	特別展「漆器 JAPANWARE 文理融合型研究から見えてきた—漆の過去・現在・未来」(6/18～7/31)
2012 (平成24)年	1月	特別展「人類史への挑戦—南山大学考古・民族コレクション—」(1/20～3/17)

編集後記

2011年という年を回顧するにあたり、東日本大震災の問題は長く記憶に留められるべき重大時であることは改めて指摘するまでもありません。一体、被災地に対し我々の立場として何ができるかということは、当然、問われてしかるべき事柄でした。その後、博物館界においては、地元自治体と国立クラスの博物館による被災文化財レスキューの情報が刻々と入りましたが、圧倒的多数を占める学芸員が数名しか所属しない小規模館がこれに参画するのはなかなか困難な状況があるようです。あまつさえ少ない人員による運営を強いられている最中、やむを得ない事情とも言えますが、被災地で現場にあたる方々の苦労を思えば全く申し開きのできないことではあると感じています。何もしないよりは——という程度のことであったかも知れませんが、当館では被災した産地の伝統的工芸品を展示するなどし、募金の呼びかけをおこないました。

さて、2011年度におけるトピックスとしては、特別展はここ数年継続していた理工学部宮腰研究室との間での漆をテーマとする連携に文学部阿部教授の縄文漆器研究が加わり、明治大学における漆研究の成果公開として一つの画期となりました。2年目に入った南山大学人類学博物館との交流事業では、展示活動が始まりました。同館のコレクションは地元である愛知県あるいは東海地方の枠をはるかに超える範囲にわたるもので、関東地方で出土した考古遺物には最古級の土偶や縄文時代の丸木舟など、あるいはタイやニューギニア、オセアニアなどの民族資料が、人口集住地である首都圏において公開されたことには大きな意味があったと思います。また、地方との連携という点では、譜代大名内藤家文書の研究促進と旧領延岡市との交流事業が大学の政策的計画に位置付けられました。これまでも延岡市との間には交流がありましたが、内藤家の旧領はさらに広い範囲にわたるもので、今回は宮崎県全域を射程に入れた交流事業として実施することになりました。2009年度末に受贈した前場幸治瓦コレクションの整理作業も政策的計画として始動し、将来的には整理作業の成果を踏まえた展覧会が開催される予定となっています。

(編集子)

明治大学博物館年報 2011年度

2012年6月18日 発行

編集 明治大学学術・社会連携部博物館事務室
発行人

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電話 03-3296-4448

FAX 03-3296-4365

URL <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

印刷 株式会社サンヨー

東京都千代田区神田神保町1-30

